

令和6年8月 教育委員会臨時会会議録

1 開会の日時

令和6年8月15日（木） 午前9時30分

2 出席委員

新 倉 聡 教育長
荒 川 由美子 委員（教育長職務代理者）
澤 田 真 弓 委員
川 邊 幹 男 委員
元 木 誠 委員

3 出席説明員

教育総務部長	古 谷 久 乃
教育総務部総務課長	加 藤 博 昭
学校教育部長	坂 下 裕 一
学校教育部教育指導課長	鈴 木 史 洋
学校教育部支援教育課長	原 口 尚 延
学校教育部保健体育課長	小 田 耕 生
学校教育部教育情報担当課長	矢 本 歩
教育研究所長	梅 谷 尚 子
教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長	渡 邊 実佐紀
教科用図書採択検討委員会高等学校専門部会長	米 持 正 伸
教科用図書採択検討委員会特別支援教育専門部会長	村 野 茂
学校教育部教育指導課指導主事	黒 澤 正 道
学校教育部教育指導課指導主事	萩 原 幸 太
学校教育部教育指導課指導主事	高 瀬 鉄 平
学校教育部教育指導課指導主事	北 井 友 理
学校教育部教育指導課指導主事	東 昭 子
学校教育部教育指導課指導主事	山 本 真理子
学校教育部支援教育課指導主事	有 馬 剛
学校教育部保健体育課指導主事	福 地 真 一
教育研究所主査指導主事	新 谷 美 紀

4 傍聴人 10名

5 議題及び議事の概要

○ 教育長 開会を宣言

(新倉教育長)

本日、傍聴希望者が多数いらっしゃっておりました。抽せんに漏れた方に対しては音声のみを隣室に流したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ありがとうございます。

それでは、音声のみを隣室に流すことといたします。

○ 教育長 本日の会議録署名人に荒川委員を指名した。

(新倉教育長)

8月8日の教育委員会定例会にてご連絡いたしましたけれども、本日の議事は教科用図書の採択であるため、関係部課長及び教科書採択検討委員会委員長、各部長並びに関係指導主事が出席しております。

なお、高等学校専門部会及び特別支援教育専門部会長は、各該当議案のみに出席をいたします。

審議に入ります前に、本日の教科用図書採択までの流れを確認しておきたいと思っております。

今年度は、中学校の全ての教科、高等学校、特別支援学校及び特別支援学級の採択替えの年となります。

小学校については、新たに発行されることになった教科用図書がありませんので、令和7年度に使用する教科用図書は令和5年度に採用したものを継続して使用することについて、教育指導課長からの議案の提案説明を受けて、審議を行いたいと思っております。

各委員におかれましては、既に6月14日から6月27日に教育研究所の横須賀

地区教科用図書センター及び産業交流プラザで実施された教科用図書展示会で教科用図書を閲覧していただいていることと思います。つきましては、本日の報告を尊重しつつも、各委員の権限と責任の下に厳正な採択をしていくことを改めて確認したいと思います。よろしく願いをいたします。

続きまして、教育指導課長より採択基本方針の確認と採択事務全体の経過説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

令和7年度使用教科用図書の採択について、本日に至るまでの経過を説明いたします。

令和6年4月18日の教育委員会定例会において、令和7年度使用教科用図書の採択基本方針を決定いたしました。

基本方針は、教科用図書の採択に当たっては、1、公正かつ適正を期し、優れたものを採択する。2、児童・生徒及び学校その他の特性を考慮して採択する。3、教科用図書について、教科用図書採択検討委員会等の調査研究の結果を活用して採択する、の3点です。

5月10日には、教育委員会の諮問に応じ教科用図書の採択について検討し、答申をしていただく期間である教科用図書採択検討委員会の委員を委嘱し、同日、同検討委員会に対して令和7年度使用教科用図書に関する検討について、諮問いたしました。

次に、教科用図書に関する検討、調査研究の行い方についてです。

本年度は、参考資料1にありますとおり、中学校、高等学校、特別支援学校・学級が採択替えとなりますので、検討委員会内にそれぞれの校種ごとに専門的に検討を行う専門部会を設置しました。また、調査研究、資料の作成、需要数の報告を行うため、教科用図書調査事務局、調査部会及び同事務部会を設置しました。調査事務局の設置後、1か月余りの間、文部科学省の教科用図書目録に記載されている全てについて、多くの時間を費やし厳密に調査研究及び検討を行いました。

なお、中学校においては、各教科の調査部会で、各教科書に記載されている二次元コードのリンク先にあるデジタル教材について、生徒にとって分かりやすく、理解が深まる内容になっているかという観点で調査をしていただきました。その結果は、報告様式1(カ)に記載されておりますが、総合評価をする際は、教科書本体の評価を優先しています。

また、英語につきましては、国から令和6年度以降全ての小中学校等を対象に、小学校5年生から中学校3年生に対して英語のデジタル教科書を紙の教科書と併せて提供する予定であることが通知されています。よって、中学校英語につい

ては、基本的には紙の教科書を主な調査検討の対象とした上で、デジタル教科書についても調査を行い、総合的に評価をしています。

6月14日から27日まで、横須賀市教育研究所の横須賀地区教科用図書センター及び産業交流プラザにおいて、市民の皆様にも公開する形で教科書展示会を開催し、625名の方が来場されました。

こうした過程を経まして、最終的に調査・検討結果を取りまとめるため、7月17日に2回目の採択検討委員会を開催し、答申内容が決定されました。そして、これを受け、事務局において本議案を作成いたしました。

なお、教育委員会の皆様には、事前に各教科の比較検討結果等をお届けし、ご検討いただいていたところですので。

本日は、先ほど申し上げた経過を踏まえ、教科用図書採択検討委員会、渡邊委員長から説明がございました。ご質問の内容によりましては各担当からお答えいたします。

また、本日は、中学校の全ての教科書、高等学校においては候補としている教科書、特別支援教育に関しては一般図書の一部を用意しておりますので、必要があればお申しつけください。

それでは、ご審議のほどよろしく願いいたします。

(新倉教育長)

ありがとうございました。

ただいまの教育指導課長からの説明について、質問がありましたらお願いをいたします。

(元木委員)

採択候補を検討するに当たり、先ほど少し説明がありましたが、デジタルコンテンツはどのような位置づけで評価されているか、特にデジタルコンテンツのよしあしが評価に含まれているか、影響し得るかについて教えてください。

また、ICTを活用した教育が推進されていますが、デジタルコンテンツのよしあしがICTを活用した教育に影響することはないでしょうか。教えてください。よろしく申し上げます。

(数学担当指導主事)

先ほども教育指導課長のほうからお話がありましたが、繰り返します。まず、各教科の調査部会で教科書に記載される二次元コードのリンク先にあるデジタル教材について、生徒にとって分かりやすく、理解が深まる内容になっているかという観点で調査をしていただきました。その結果は、先ほどもありましたよう

に報告様式1（カ）に記載されております。総合評価をする際は、教科書本体の評価を優先しています。また、デジタル教材の数自体も前回の採択時と比較すると飛躍的に増えています。

委員のご指摘のとおり、授業においてどれを選択し、どのように活用するかは課題であると捉えています。引き続き調査研究を進め、各学校に対して指導・助言をしてまいる予定です。

（新倉教育長）

ほかに質問ないようですので、続きまして採択の方法について確認をさせていただきます。

採択替えがなく、教科用図書採択検討委員会専門部会を設置していない小学校につきましては、教育指導課長から議案の提案説明を受けて審議を行い、採択の決については挙手により行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会専門部会を設置している中学校、高等学校、特別支援教育につきましては、まず教科用図書採択検討委員会委員長または部会長より検討の経過に対する説明を受けたいと思います。次に、提出された議案に対し教育指導課長が提案説明を行います。そして、議案に掲げられた教科用図書のほかに、委員の皆様のご推薦がないかご意見を伺い、推薦がある場合はその科目について審議をし、採択候補の決定を行います。

採択候補の決定については、原則として教育委員会会議規則第17条の規定により、無記名投票としていただき、投票多数のものを採択候補として決定したいと思います。

1位の投票数が同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第4項により、教育長の決するところとなります。候補が1者の場合には、各委員から異議がなければ、異議のない旨の確認を取った上で採択候補の決定としたいと思います。

採択の決については、採択候補を決定した後に挙手により行いたいと思います。なお、委員の皆様から候補の推薦等がない場合には、議案に記載の教科用図書について審議を行い、採択の決を採りたいと思います。

以上、本日の採択方法につきまして、各委員ご異議はございませんでしょうか。

（各委員）

異議なし

（新倉教育長）

ご異議ないようですので、そのように決定、進めさせていただきます。

ここで、事務局より報告があればお願いをいたします。

(事務局)

事務局より報告させていただきます。

令和6年3月12日付で日本出版労働組合連合会教科書対策部より「2024年度における公正な教科書採択のために」が、令和6年6月11日付で神奈川労働弁護団、社会文化法律センター神奈川支部、自由法曹団神奈川支部、青年法律家協会弁護士学者合同部会神奈川支部の4団体より「育鵬社の公民教科書に関する意見書」が、令和6年7月9日付で在日本大韓民国民団神奈川県地方本部より「横須賀市管内中学校における歴史教科書の採択に関する要望書」が提出されております。各委員の皆様におかれましては、事前に送付させていただいております。事務局からの報告は以上です。

(新倉教育長)

ありがとうございます。

様々なご意見があるということをご承知の上でご判断をいただければと思っています。

日程第1 議案第27号『令和7年度使用小学校教科用図書の採択について』

教育長 議題とすることを宣言

(教育指導課長)

議案第27号『令和7年度使用小学校教科用図書の採択について』説明をいたします。

本議案は、小学校教科用図書については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条の規定に基づき、本年度は採択替えがありませんので、令和5年度採択のものと同一のものを採択しようとするものです。

なお、採択する小学校教科用図書は記載のとおりです。ご審議のほどよろしくお願いたします。

(新倉教育長)

ただいまの説明にありましたように、小学校は令和5年度に採択替えをしておりますので、令和7年度も同一の教科用図書を使用することについて審議す

ることとなります。

それでは、議案第27号について質問がございましたらお願いをいたします。

質問・討論なく、採決の結果、議案第27号は「総員挙手」をもって、原案どおり可決・確定する。

日程第2 議案第28号『令和7年度使用中学校教科用図書の採択について』

教育長 議題とすることを宣言

(新倉教育長)

審議に入る前に、教科用図書採択検討委員会委員長より、検討の経過に対する説明を求めたいと思います。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校の教科書採択につきまして、これまでの経緯を説明いたします。

本日に至るまでに採択検討委員会を2回実施いたしました。

第1回は5月10日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。

中学校においては、調査部会により全ての発行者について同一に、横須賀の生徒に最もふさわしい教科書を採択するため、十分な調査を行い作成された調査評価表と、事務部会から提出いただいた各学校の報告資料を基に、第2回採択検討委員会専門部会を7月17日に実施し、検討を行いました。

同日、採択検討委員会で調査事務局による調査結果を慎重に審議し、答申内容を決定し、本日に至っております。

(新倉教育長)

それでは、議案の説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

調査事務局の調査部会及び事務部会において調査研究を行った資料を基に、採択検討委員会において検討、審議がなされました結果が、お手元にある採択候補案です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

(新倉教育長)

中学校の教科用図書については、順次10教科、16種目の教科書審議を行います。

採決は、全ての教科の審議終了後に一括して行いたいと思います。
それでは、まず国語の教科書から順次、採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校国語は、発行者4者のうち光村図書出版の1者を答申いたします。

光村図書出版は、「学びへの扉」で単元の学習過程を把握できるところや、「学びのカギ」で身につけたい資質・能力が明確に分かるところが、主体的に学習を進めるという点で大変配慮されています。また、様々な種類の読書活動が掲載されており、生徒の日常と読書を結びつける工夫がなされている点が特に優れています。

本市中学生の国語の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、国語については光村図書出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいまの教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明につきまして、ご質問があればどうぞ。

(元木委員)

採択資料4ページにおける採択の視点(ウ)並びに中学校専門部会の第2回の議事録によりますと、本市では書くことに力を入れており、その中でも特に意見文・批評文を書くことに力を入れているとのことですが、その点に力を入れている理由と、話すこと・聞くこと、読むことについてほかの発行者のほうが優れている点があったかどうか。特に、現在使用している三省堂と比較していただければと思います。よろしくをお願いいたします。

(国語担当指導主事)

本市が特に書くことに力を入れている理由としては、全国学力状況調査の結果、書くことにおいて無解答率が高いからです。そこから、書くことについて力

を入れて取り組んできました。また、横須賀市学校文集においては、昨年度から意見文・批評文のみ掲載することとし、横須賀市全体として、書くことの授業について見直している状況において、現在使用中の三省堂と比べ、「学びのカギ」として身につけたい部分がまとまっていることや、インデックスの形になっており、生徒が自分のつまずきを把握しやすい点から、生徒が自ら学習を進める上で使用しやすいと考えました。

なお、ほかの発行者が優れている点としては、話すこと・聞くことにおいて、現在使用している三省堂の話合いのコツの部分については生徒が活用しやすいという意見もありました。

(元木委員)

今説明いただきましたが、やっぱりこの3つ、話すこと・聞くことと読むこと、かつ書くことについてなのですが、バランスも大事だと思うのです。そのバランスを今回書くことに重点を置くという形に変更したということになると思うのですが、そこのお話の中で、無解答が多かったというところがあったと思います。ただ、それ以外の話すこと・聞くことというところも大事かと思うのですが、その点とのバランスの具合について、今回光村図書が優れている点をご説明いただければと思います。

(国語担当指導主事)

先ほど三省堂の話すこと・聞くことについて、話合いのコツの部分が、生徒が活用しやすいという意見もありました。調査部会で、この話合いのコツのところも子どもたちに気づかせていきたいということの話がありました。また、光村図書出版の話すこと・聞くことのところでは、話すこと・聞くことの前に短い1ページ分のところで聞くことについてのページが割かれています。そこについて、聞き上手になろうとか、動画で聞くことについて話がある部分については評価しているという話がありました。

(元木委員)

これ1年生の教科書でいうと、192ページに、その話す・聞くというところで、グループでの語り合いみたいなことも書いてある。このあたりを活用すれば、書くこと以外の話すこと・聞くことというところもしっかりと授業の中で扱っていけるというような理解でよろしいでしょうか。

(国語担当指導主事)

ありがとうございます。

あわせて、今お話ししてくださった192ページの前に、1年生の教科書189ページのところに話す・聞くの小さい単元があることによって、ここと連動して話す・聞くの力を身につけさせることができると考えております。

(澤田委員)

横須賀市では、読書活動の推進に力を入れているところです。採択資料の4ページの特に優れていると判断した理由で、光村図書出版は「生徒の日常と読書を結びつける工夫がなされている」とあります。具体的にどのような工夫がなされているか、ご説明をお願いします。

(国語担当指導主事)

生徒の日常と読書を結びつける工夫として、3学年統一して掲載されている読書単元、「読書を楽しむ」があります。1年生では84ページになります。ここでは、複数の読書活動を掲載しており、生徒の実態に合わせて選択できるという工夫がなされています。また、1年生の90ページでは、中学校の一日に合わせて本が紹介されていることから、日常と読書を結びつける工夫がなされているという意見がありました。

(荒川委員)

私から2点質問させていただきます。

まず、1点目なのですが、光村の巻末の語彙ブックについてです。4年前は、巻末の語彙表で、多くの語彙表が表示されているものの、生徒自らが活用できるかという難しさがあるという報告がありました。今回、光村の語彙表は、生徒が使いやすいものに改良されたと判断してよろしいのでしょうか。

それともう一点は、今の澤田委員の質問にも関係するのですが、採択資料4ページの(オ)に、光村の教科書では各学年複数のテーマに分けて本の表紙や内容が掲載されている点が、読書活動の充実を図る上で大変優れているとの記述がありますが、どのようなテーマで分けているのか。また、そのメリットについて教えていただければと思います。よろしく願いいたします。

(国語担当指導主事)

まず、1つ目のご質問からです。

4年前から改良された点として、各学年で指導する内容と併せて語彙ブックが編さんされていること、指導する内容に合わせて分類されている点が挙げられます。具体的には、2年生で学習する人物像に着目することについて、4年前は人の性質に関わる語彙は1年生の教科書に掲載されていました。今回は、2年

生の教科書271ページに掲載されております。また、3年生で学習する批評文における批評するときの言葉について、4年前では見方や考え方を表す言葉として大きくまとめてありましたが、今回は3年生の教科書の252ページに、批評するときの言葉として、実際に批評文を書いていく際に使用する分類で語彙がまとめられています。このように、生徒が自ら使いやすい形に改良されました。

さらに、現代の国語教育では、生徒が自ら問いを立て、それを解決していく中で、資質・能力を身につけていく授業展開が求められています。そのことを踏まえて、生徒の思考を促す語彙を追加しています。具体的には、1年生の教科書の272ページ、思考するときの言葉として、多くの語彙を示しており、生徒が主体的にこれらの語彙を活用していくことができるように改良されています。

2つ目のご質問です。

各学年における読書の指導事項をテーマにして分かれています。1年生では、学習指導要領の指導事項に「読書が知識や情報を得る」とあるところから、196ページ、「研究の現場へようこそ」で、研究や職業などの知識や情報を得ることができる本が紹介されています。

2年生では、指導事項に「本や文章などには様々な立場や考えが書かれている」とあることから、「自分らしさを認め合う社会へ」で共生や生き方に関する本が紹介されています。具体的には、2年生の教科書192ページになります。

3年生では、指導事項に「自分の生き方や社会との関わりを支える読書の意義と効用」とあるところから、本は世界への扉へ、3年生の教科書だと190ページになります。世界に目を向け、世の中との関わりに関する本が紹介されています。

これらのメリットとしましては、指導事項に沿ったテーマであることから、生徒の発達段階に応じた読書活動の充実が図りやすいところがあります。また、それだけではなく、先ほどもお話ししましたが、3年間統一して掲載されている読書単元「読書を楽しむ」もあり、生徒の興味関心を引く本が紹介されている部分もよいと考えております。

(荒川委員)

ありがとうございました。

(新倉教育長)

私からは1点だけ確認させていただくと、今回二次元コードが各教科書の中に入ってきました。今の国語の教科書の採択に当たっては、書く力をとということになったときに、他の教科と比べてこの二次元コードの効果というのはどういうふうに判断をされたのかなというところなのですが、何か特別にご意見とかありましたか。

(国語担当指導主事)

先ほどの書くこととつなげますと、書くことの題材であります1年生の54ページ、書くことの「情報を整理して説明しよう」、発見したことを分かりやすく書くというところで、この右下の書くことのミニレッスンという二次元コードがございます。こちらを読み込んでいただくと、今回の「情報を整理して説明しよう」という、こちらです。このように、54ページに学ぶ「情報を整理して説明しよう」に入る前の段階として、子どもたちがここで小さな問題を解くことで、この单元の中で必要なポイントになるところを先に学習することができるというところで評価しております。

(新倉教育長)

これだと、その書き込みができるということなのですか。

(国語担当指導主事)

今そこに文字を入れていただけると。実際に子どもたちがその問題に対して解答を打ち込み、右上のミニレッスンの解答を表示というところを押すと解答例が出てきます。そのようにして、子どもたちと先にこのミニレッスンで单元を学んでから、実際に中の書くことに入っていくということがとても活用しやすいという話がありました。

(新倉教育長)

ありがとうございます。

ちょっと順番が変わってしまったのですが、それでは、国語の教科書につきまして、まず、今教育指導課長から提案がありました光村図書出版のほかに、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書が別途ございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、引き続き今の光村図書に関してご質問を受けたいと思いますけれども、何かございますか。

(質問なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、国語の教科書に対する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校国語につきましては、『光村図書出版』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

異議ないようですので、『光村図書出版』を採択候補として決定をいたします。

(新倉教育長)

次に、書写について採択候補の決定を行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校書写は、発行者4者のうち光村図書出版の1者を答申いたします。

光村図書出版は、毛筆と硬筆の関連性や楷書と行書の配分など教科書全体の構成や、イラストや写真などの配色に工夫が見られ、生徒が見通しを持って学習を進められる点で、大変使いやすいこと。また、「書写ブック」は生徒が主体的に毛筆で学んだことを硬筆に生かすことができる点で大変効果的であるから、これを推薦いたします。

本市中学生の書写の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、書写については光村図書出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいまの委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明につきまして、ご質

問がありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、書写の教科書についてですが、今、教育指導課長から提案のありました光村図書出版のほかに、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、それでは、書写の教科書について質問をお伺いしたいと思います。候補本に関して何かご質問はありますか。

(荒川委員)

では、私から3点質問させていただきます。

1つ目は、採択資料5ページの別冊の書写ブックについてですが、毛筆の学びで得たこと、知識や技能の確実な定着を図るための工夫が適切であるとのことと、具体的に年賀状を書かせることが紹介されていましたが、ほかにはどのようなことが紹介されているのでしょうかということと、2つ目は、採択資料5ページ(オ)の文字文化についてです。生徒に考えさせ、日常生活との結びつきを感じさせる点が大変効果的だとのことなのですが、具体的な事例を紹介していただければと思います。3つ目なのですが、左利きの生徒に対する配慮がなされている点がありましたら、紹介していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(国語担当指導主事)

質問のまず1つ目からお答えします。

年賀状のほかには、一つ一つの技能、点角の連続や点角の省略等を1ページか2ページにまとめて掲載し、硬筆で書くことができる点と、それらを使って古典の一節や和歌を書くことができる点、そして、書写テストを掲載している点を通じて、毛筆で学んだ知識や技能の確実な定着を図るための工夫がされています。

2つ目は、主にコラムの部分において、日常生活との結びつきを生徒に意識させる工夫がなされています。具体的には、48ページご覧ください。

48ページでは、文字の歴史のうち、パスポートや紙幣に使用されていることや、82ページや90ページからは、地域や場所にいろいろな文字が使用されていることに気づかせるようになっています。また、88ページの「考えよう」では、手書きのよさを考える話し合い活動もあり、文字文化について日常生活を基に考える工夫がなされています。

3つ目の左利きの生徒に対する配慮ですけれども、教科書31ページや33ページで、左手で書く人と紹介をされています。また、左利きの配慮ではないのですが、教科書の57ページのこちら二次元コードを読み込むと、2種類の動画、取り立てて身につけたい部分と、全体の筆使いの動画があり、分かりやすいと考えております。

(荒川委員)

ありがとうございます。

(新倉教育長)

今のご説明のこの動画を動かしてみてもらえますか。

(デジタルコンテンツ再生)

(新倉教育長)

ありがとうございます。

(元木委員)

先ほどの荒川委員の質問にも関係するのですが、昨今、1人1台端末が活用されるようになりまして、紙に文字を書くことが減り、かつタブレットへの入力もローマ字入力が主流になっているという状況にあります。その結果、書写の必要性が薄れてしまっている懸念があります。

光村図書では、手書きのよさを考えさせる工夫がされているとのことですが、その点について詳しく教えてください。

(国語担当指導主事)

手書きのよさを考える工夫として、教科書の104ページのコラムでは、著名人の筆跡を掲載し、それぞれの文字から何を感じるか考えさせるような工夫がされております。

また、先ほどもお話しした88ページの「考えよう」では、漫画の内容から生徒の日常生活を基に手書きのよさについて話し合えるように工夫がなされていま

す。

(元木委員)

説明ありがとうございます。

手書きの自分らしい文字といったところ、104ページに書いてあるような内容を見て、生徒さんにとって手書きって大事なんだなと思ってもらうことが大事だということですね。結果的に、タブレットとかで手書き文字を練習するようなことというのは、特に授業内では行うようなことはないのでしょうか。手書き文字を、文字認識といったところでタブレットを使って練習させたりすることは、授業の中で取り入れる予定はないのかなというところをお伺いしたいのですけれども。

(国語担当指導主事)

今、それぞれの学校で考えている書写の授業の中で、タブレットに実際に書いてという学習展開の話は、授業展開については出ておりません。やはり書写の時間に実際に筆や鉛筆を持って書くこと、それぞれの文字をきれいに正しく書くということや、また中学生の104ページ、88ページのように、その人のそれぞれの個性や考え方の出る文字について考えるのには、タブレットを使用するよりは実際に紙に書いたほうが良いという授業展開になっています。

(元木委員)

紙に書くというところは確かに大事だと思うのですが、これからデジタル的な形で入力する機会が増えてくると。自分のサインというものをデジタル的に入力する機会というのもこれからあると思うのですね。そういったときに、紙では書けるのだけれども、タブレットだと書けないということもあるかと思えますので、そういった紙以外のものに対して手書き文字を書くところの練習も大事なのではないかなと思うので、こういった点を、もし可能であればこれから授業の中で扱ってもらえればなと感じました。よろしくお願いします。

(新倉教育長)

私から1点だけ。先ほどやはり国語のほうでは、書く力をどうやってつけていこうかという形が非常に課題だとされている。では実際にどう書くかということがこの書写との連動になってくるのだろうと思っているのですが、その中で、採択の理由としてお使いになっているのが、この「書写ブック」が有効だと言っているのですが、これを見せていただくと、その別冊というのは、冊子の部分から切り離して3年間別にこれを使うという形になるものかなと思うのですが、

具体には、3年間の間にどういうふうに授業の中で使う形になるのですか。

(国語担当指導主事)

まず、別冊になっていることで、子どもたち、また先生方で管理がしやすいという点が調査部会で話がありました。また、3年間の学習を通じてというところですけども、別冊の部分で、右端のところそれぞれ該当する教科書のページとインデックスで1年生、2年生、3年生というふうにしてなっています。

そして、2年生になっても1年生でやった学びをもう一度この別冊のブックで振り返ることができる。3年生では、この別冊1冊と教科書を連動させることによって、3年間学んだことを自分たちで自覚することができるという点で、評価しているという話がありました。

(新倉教育長)

分かりました。私の勘違いだからいけないのか、別冊というと、別に扱うのだというふうに思っているのだけれども、ということは、これは切り離さないで、そのまま3年間ずっと持っているという、くっついているということ考えていいのですか。

(国語担当指導主事)

3年間、ここから取り外して使いましょうと書いてあるので、外して使ってもいいし、このままつけて使ってもいいしというふうな形なのかなと思いますが、外して使うにせよ、一緒に使うにせよ、3年間のものが一冊にまとまっていて、それが毛筆と硬筆で連動しているということについては。

(新倉教育長)

単純に考えたときに、単なる教科書とドリルがセットになっているのだよというのは昔多分あったのかなと思っているのですね。今、この部分って、私はドリルの部分に該当するところだと思っているのです。だとすると、これが別冊だといって分かれてしまったら、どちらかがなくなったらどうするのかなと思っただけ。だから、本来なら一緒になければいけないし、わざわざ分離することを何で目的にしたのかなというのが分からなかったのです。でない、過去を遡ってといたって、教科書の部分とドリルで自分が書いてきたものが見比べができないではないかと思っているので。何か使い勝手がいいように見えて、悪いのではないかなという印象を今持ったので、その点を採択のときにはどう評価されたのかなというのを聞きたかったのです。

(国語担当指導主事)

採択の中では、この硬筆の部分でまず一つまとまっていることについて、評価されていました。教科書と硬筆が別冊ではあるけれども連動しているという部分、3年間で学んだものが視覚的に一冊にまとまっていることについて、高く評価をしていました。

(元木委員)

今思ったのですけれども、この書写ブックの部分と本編を2つ並べておいて、書写ブックのほうで書いていくというような形の使い方をするのかと思ったのですが、とすると2個分かれるというところに意味が出てくると思うのですけれども、そういった使い方をしていくという理解でよろしいですか。

(国語担当指導主事)

調査部会のところでは、そのような使い方もあるという話が出ておりました。教科書と書写ブックと同じページを見ながら筆使いを学んだことを硬筆で確認したりというふうにしてやることができるという話が出ていました。

(新倉教育長)

今のご質問は、できるのではなくて、実際この教科書をどういうふうに部会の先生方は使おうとしたのかなという方針なんだ。原則がどこにあるのかが分からないので、そこを確認させていただいている。だから、分離して使うことを前提に採択を求めたのか、合体しているものとして考えていたのかというところが分からないので、教えてほしいということなのです。

(国語担当指導主事)

失礼いたしました。調査部会のところでは、別冊で取り外して使うということで話を進めていました。ですので、先ほど話がありましたとおり、教科書と別冊のブックを見ながら学習を進めることができる点、また、毛筆で学んだところを再度繰り返し学べるというところで、別冊を取り外して使うことで方針が立っています。

(川邊委員)

この別冊方式は光村図書だけなのですか。ほかの方式はないのでしょうか。

(国語担当指導主事)

調べた中では光村図書出版が別冊で、あとは教科書の毛筆を学んだ後に硬筆

の部分のページがあるというような形になっておりました。

(新倉教育長)

すみません、今の毛筆の後に硬筆があるというのは、教え方が違うという意味なのですか。今言っているのは、こういった書写ブックみたいな別冊があるのかというご質問だったと思うのですが。書写ブックみたいな方式を取っているのはほかにあるのかという質問かと思ったのですけれども。ちょっと回答が違ったのかなと思っているのですが。

(国語担当指導主事)

失礼いたしました。別冊になっている形は光村図書出版のみでした。

(新倉教育長)

質問もないようですので、質問を打ち切り、討論に入りますが、何かご意見ございますでしょうか。

私からは、討論といいますか、意見として1つだけ。先ほど活用の方法の中で分離ということも1つあるのですけれども、3年間の中で分離してしまうと、最終的に2年生、3年生になったときにそのものをなくしてしまうという危険性を非常に持っているよねと思っているのですね。その辺をちゃんと指導しないと、実際に3年になって使おうと思ったら書写のところはないのですという子どもがいっぱい出てきてしまったら、何のためのブックかということがあるので、実際の指導の中ではどう一体化して確実に持っているかということを念頭に置かないと、その危険性は非常にあるのかな。

だからこそ、ほかの出版社は一体化をしているのではないかと考えているので、1年間だけだったらいいのだけれども、3年間使う教科書の中で考えたときには、非常に危険性が高いのではないかなというふうには思っているのですが、その辺は指導主事を含めて関係の先生方の中で活用について、初めから分離を第一前提にする必要もないしというところを、もう一回判断をされたほうがいいのではないかな。分かれて使う場合もあるかもしれないけれども、その際には離れ離れになってしまわないことも必要だということを念頭に置いてほしいなと思っていますので、これは意見として言わせておいていただきます。

(新倉教育長)

ほかにご意見ないようですので、書写の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校書写につきましては、『光村図書出版』でよろしいでしょうか。

(各委員)
異議なし

(新倉教育長)
ご異議ないようですので、『光村図書出版』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)
次に、中学校社会（地理的分野）について、採択候補の決定を行います。
採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いいたします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)
中学校社会（地理的分野）は、発行者4者のうち帝国書院の1者を答申いたします。

帝国書院は、各ページに単元課題が示され、生徒が課題を意識しながら学習することができること。さらに、写真・資料が大きく、大変分かりやすく、単元のまとめについては見方・考え方の項目が示されており、生徒が単元課題をまとめる上で大変活用しやすくなっています。

本市中学生の社会の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)
ありがとうございました。
それでは、次に提案説明をお願いします。

(教育指導課長)
ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、社会（地理的分野）については、帝国書院を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について、質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、社会の地理的分野の教科書について、教育指導課長から提案のありました帝国書院のほかに、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、社会（地理的分野）の教科書について質問をお伺いいたします。候補本に関して何か質問がございましたらお願いをいたします。

(元木委員)

採択資料6 ページにおける採択の視点の（オ）に、様々な思考ツールが活用されているとのことですが、思考ツールの活用について具体例を示していただけないでしょうか。よろしくお願ひいたします。

(社会科担当指導主事)

まず、巻頭9 ページをお開きください。考えを整理する方法として、4種類の思考ツールについて説明や手順が記載されています。また、デジタルコンテンツでは、さらに6種類の思考ツールについて紹介されています。こちらについては、画面に映し出していただけますでしょうか。このように、思考ツールについて紹介が取り上げられており、また、エクスチャートを開いていただいてもよろしいでしょうか。解説動画をお願いします。このように、デジタルコンテンツ上でもこの思考ツールの使い方について説明がされております。

活用の具体例としましては、教科書に戻っていただきまして181ページ、こちらに示されているように、ウェビングを活用して単元で学習したことを関連づけ、九州地方の自然環境に着目した単元、教科書では節と書いてありますが、節の問いに答えることができるようになっております。

(荒川委員)

では、私からは2点質問させていただきます。

まず、帝国書院の教科書は、図や表、写真が大きく見やすいとのことですが、資料の新しさについて、ほかの者と比較したときに違いはあるのでしょうかということと、もう一つは、近年は自然災害が多いのですが、各地域での減災の取

り組みなど帝国書院が取り上げている災害について、生徒が自分事として考えられるような工夫がありましたら、教えていただければと思います。よろしくお願いたします。

(社会科担当指導主事)

まず、1点目についてです。資料の新しさについては、世界各地の雨温図は帝国書院も他者も2023年のデータから作成されており、同じです。しかし、その他の資料、例えば世界の諸地域の人口、日本の諸地域の人口については、帝国書院は新しいデータが使用されています。ほかの資料についても、他者と比較してデータが古いということはありませんでした。

2点目の自然災害についてです。自然災害については、教科書146ページから151ページまで集中的に記載されています。まず、日本で発生する自然災害と防災・減災への取り組みを学び、次に、ハザードマップなどの防災情報を活用して自然災害に備える学習を行う工夫がされています。この自然災害に備える学習では、イラスト地図で発生する可能性の高い自然災害を考え、他都市のハザードマップでその読み取り方を理解してから、身近な地域の自然災害や防災を考えたり調べたりする展開となっており、自分事として取り組めるようになっていきます。また、日本各地に関するページでは、それぞれの地方の自然環境に応じた災害と防災の取り組みが解説され、東日本大震災の復興に向けた取り組みについては1ページ割いてコラムが記載されており、災害や防災について触れる機会が多く設けられています。このことから、自分事として考えられるような機会は多いかなというふうに考えております。

(荒川委員)

ありがとうございます。

(澤田委員)

採択資料6ページの(エ)に「他教科との連携が大変分かりやすく示されている」とあります。例えばどのような教科の内容との連携でしょうか。

(社会科担当指導主事)

見開きページの下部に、どのページにおいてもですが、小学校、歴史、公民、他教科の関連が記載されています。その中で、例えば緯度・経度について学習する8ページ、こちらには他教科との関連として地球の自転・公転(理科)というように示されています。

(澤田委員)

議事録の事務部員の推薦理由で、「ページごとに説明させる課題が設定されており、地理的な見方・考え方を働かせて考える工夫がなされている点」、また、「課題解決の道筋の提示」を挙げています。生徒の学びの課題として、「説明する力」が言われていることを考えると、帝国書院のページの構成は評価できると私も考えます。

さらに、「単元と単元とのつながりを感じられる構成」も挙げておりますが、地理での「単元と単元とのつながり」とは、具体的にどのようなところなのでしょう。

(社会科担当指導主事)

こちらについては、単元の学習内容をつなげるというよりも、学び方を単元でつないでいくという構成ということです。例えば89ページのように、こちらの右下にありますように、小単元に当たりますが、節の振り返りのページの最後に、その節の問いの解決に向けた取り組みについて、よかった点や改善点を振り返ったり、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことを書き出したりする活動を行うことで、その節での学び方を次の節で生かせる構成になっています。

(新倉教育長)

私からは、総論的なお話で確認したいのですが、中学校の社会科というのは、たしか地理・歴史・公民の3つに分かれていきます。今ご提案いただいている帝国書院だと7ページになるのかな、地理的分野の学習の全体像というのが示されていて、その中でいくと、まずは世界の中を見て、世界と日本を比べ、それからなおかつ自分のところに下りてくるというような発想で地理はつくられている。でも、歴史になると今度違ってきちゃいますよね。公民だと、つまり捉え方が、自分が住んでいる、あるいは今のところから広がっていく地理の学び方もあるだろうしといったときに、これから出てくる歴史・公民の3つの学習の全体像というのは、それぞれが一致しているのですかというところが分からない。その辺の何か整合性というのがどこかで取れているのかということ全体を確認しておきたかったのです。

(社会科担当指導主事)

まず、小学校の社会科なのですけれども、小学校の社会科においては、身近なところから徐々に広がっていく構成となっております。それを受けて、この巻頭7ページにも、小学校の社会科で学んだ事柄から、次に地理的分野で学ぶ事柄として、今度は世界からどんどん身近な地域に近づいてくるという構成になって

います。

歴史的分野でも、推移や変化ということに着目をする事になっているので、古い時代から追っていくことで、どのように今の自分たちに近づいてきたのか、今の自分たちの生活があるのかということ、関連しているかなというふうには思います。

(新倉教育長)

ちょっと禅問答的になって申し訳ないのだけれども、地理というものを学ぶというのは、現在の地理を学んじゃっているのだよね。歴史はそうではなく、過去からの分から追いかけていきますよという形を取ってきます。それから公民は、当然のごとく制度の移り変わりだということなので、歴史的に関連してくるし、現在を中心に覚えていくことになるのだろうと思っている。その中で、地理に関してだけは、小学校のときは身近なところからなるべく広いところというふうに教えていきながら、中学になって今度は急に世界が始まって自分に戻ってくるというのって、何か一貫性があるのかというところが分からなかった。つまり、小学校6年生までだったら、自分から未来が広がってきたけれども、中学に行った途端には、自分のところから飛び越えちゃって、先に世界を全部知らなきゃいけなくて、また戻ってくるというのは、何か教え方として社会、特に地理だとかという自分たちが学ぶための中の流れとして、そういうものが今の学校教育における地理の、小学校から中学校にあるいはそれから高等学校へ行こうとしているところの一貫性が何かあるのですかという確認です。

(社会科担当指導主事)

一貫性ということでは、小学校とは順序が逆になっているので、また歴史自身も過去、自分の遠いところから始まるという意味での一貫性ということではないかなというふうには思います。ただ、学習指導要領でまず世界から日本、そして身近な地域というふうに地理は書かれているのが1点と、さらに、世界全体の様子であるとか、世界の各地域、州がどのような特色、文化や生活、気候の特色があるかということ、そしてその中で今度は日本はどのような特色があるのか。さらに日本を細かく見たときに、各地方がどのような特色があって、そこではどんな生活が行われているのか。そして、各地方の中で、今度は自分たちの住んでいる身近な地域がどのような現状があるのかということ、それを学習していくということで、それぞれの州や地方がどのような背景を基に今の生活があるのかということ、それを学習するという意味では、過去のこういったことを踏まえて今の歴史があるということの意味では一貫性があるのかなというふうには思います。

(新倉教育長)

今のご説明でいくと、それこそ最後にたどり着くのが今の自分たちの場所だとするならば、あまりにも後半部分に書いてあるのは、日本を幾つかの地方に分けてただけであって、関東地方や何かの中にこの三浦半島の記載というのは3か所か4か所ぐらいしか出てきていない。だから、この教科書以外に何かちゃんとした別の副読本を横須賀分として確保し、それが教育上で成り立つのだという考え方があるということではないのでしょうかということ。

(社会科担当指導主事)

教科書においては、教育長がおっしゃったとおり、横須賀・三浦半島に関する記載というのはそこまで取り上げられていません。ただ、横須賀を学習することでは、教育委員会が発行している「郷土横須賀」という副読本がありますので、そちらで地理・歴史・公民どの分野においても学習することができるようになっております。

(新倉教育長)

そうすると、ほかの出版社と比べても、あくまで今の中学生に横須賀を教えることは、これらの教科本から全く関係なくていいのだという考えの中で判定がされているということではないのです。地理の教科書の一般論としては、別に地元のところは構わないのだ、あくまで概要として世界と日本というものの比較があるものの中で判断をすればいいのだということで、今回判定をされているということなのです。何が言いたかったかということ、過去の選択のときにも、身近なものが記載されている教科書を使うべきだろうということが、かなり言われた記憶があるのです。そういった意味で教科書採択を今回選んだときに、特段横須賀や三浦半島あるいは神奈川が中心にされているような地理の本を採択するということはしていない。それは副読本で別途の横須賀の教育環境を取っているんだから、あくまで一般論の中における教科書として見方、使い方がいかという観点で選んでいるというスタンスでいかということだけを確認したかった。

(社会科担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおりです。教科書採択の調査部会では、特に横須賀について他者と帝国書院を比較したということはありませんでした。

(新倉教育長)

そうすると、次の話なのですけれども、この帝国書院が他者より優れているとして捉えられたのは、今言っている例えば7ページの地理的分野の学習の全体像というものが、文科省の学習指導要領に基づいているのだとすれば、その中でどこが一番優れているというふうに考えたから、この学びの中で教え込めるかというふうに見たのかというところを知りたかったのです。

(社会科担当指導主事)

帝国書院の教科書は、単元の最初に単元課題を設定します。こちらについては、他者でも同じような工夫をされているところがありました。ただ、帝国書院が優れているなどというふうに調査部会で話題になったのは、例えば45ページをお開きいただいてよろしいでしょうか。ここから始まる世界の諸地域という学習なのですけれども、46ページからアジア州が始まります。このアジア州における単元の問いというのが、アジア州が第1節になりますので、48ページの上部に1節の問いというのが書かれています。そして、ここから見開き1ページごとに各学習課題というのが記載されていますが、それとともに、各見開きページのタイトルのすぐ下の部分に、節の問いが必ず記載をされています。これによって、この節の問いを解決するための学習課題であるということを子どもたちが捉えやすく、さらに、先ほどここから世界の諸地域の学習が始まりますと言ったアジア州の最後に当たります62ページ、63ページで最初に立てた章の問いに対する答えを各見開きページの学習課題を基に答えるというふうな構成になっているところが、他者と比較しても帝国書院は優れている。これによって、各州だったり日本の地方の姿を捉えられるというふうに考えられました。

(新倉教育長)

ありがとうございます。

ほかに質問ないようですので、質問を打ち切り、討論に入らせていただきます。何かご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、社会(地理的分野)の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校社会(地理的分野)につきましては、『帝国書院』でよろしいでしょうか。

(各委員)
異議なし

(新倉教育長)
ご異議ないようですので、『帝国書院』を採択候補として決定をいたします。

(新倉教育長)
ここで、休憩を取らせていただければと思います。再開を11時5分とさせていただきます。それまで15分ほど休憩を取らせてください。

午前10時50分休憩
午前11時05分再開

(新倉教育長)
それでは、再開させていただきます。
続いて、社会（歴史的分野）について、採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)
中学校社会（歴史的分野）は、発行者9者のうち、帝国書院1者を答申いたします。
帝国書院は、導入の「タイムトラベル」の資料を使って、単元課題に基づく探究学習を行う構成になっており、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせ、様々な視点で考察しながら課題解決できる点が特に優れています。
本市中学生の社会の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)
それでは、次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)
ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、社会（歴史的分野）については、帝国書院を採択候補として提案い

たします。

(新倉教育長)

ただいま、教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明につきまして、ご質問ありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

続いて、社会（歴史的分野）の教科書について、教育指導課長から提案のありました帝国書院のほかに、委員の皆様から採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、社会（歴史的分野）の教科書について質問をお伺いいたします。候補本に関しまして、ご質問はありますでしょうか。

(澤田委員)

採択資料の（イ）に、「索引は引きやすいように工夫されている」という記載がございます。ここで特化してその索引のことを挙げているということはどのような工夫がなされているのか教えていただければと思います。

(社会科担当指導主事)

索引については、人物索引の後に事項索引が同じページ内から始まっているものだったり、索引の語句が色分けされているものなど、出版社によって特徴が多少異なります。その中で、帝国書院の索引310ページですけれども、人物索引があり、その後に事項索引が始まっており、2つの索引が分けられている点、その人物、事項が本文中に太字で掲載されているページが索引でも太字で示されており大変分かりやすい点、人物索引では、政治に関係がある人、国際交流に力を尽くした人などの区別がつくように印があり、一目でおおよそどのような人物なのか分かる点が、帝国書院は工夫されております。

(荒川委員)

では、私から2点質問させていただきます。

まず、会議録10ページに調査部員からの報告として、帝国書院は歴史が苦手な子どもも取り組みやすいのではないのかという声があったと紹介されていました。具体的に紹介されていた最後のほうに、学んだ各時代が並んでいてより体感的に歴史をつなぐような工夫がされているとのことですが、これはどのようなもので、年表との違いがあれば教えてください。

それから、次に、採択資料7ページ(オ)に、「タイムトラベル」が当時の社会に対する興味関心を引き出し、探究学習につながる点が大変優れているとの記述がありますが、具体的にどのような工夫か教えていただければと思います。よろしく願いいたします。

(社会科担当指導主事)

まず、1点目です。こちらについては、年表とは異なるものです。この最後のほうというのは、教科書の最後ということではなく、大単元の最後、教科書では章に当たりますが、章の最後という意味です。言葉が足りず、大変申し訳ありませんでした。

この章の最後に、その章で学習した時代の特色を表したイラストを並べて掲載されています。このイラストを比較することで、歴史のつながりや変化が捉えやすくなっているということです。

159ページを例に説明いたします。ここは、近世を学習する第4章の最後に当たります。第4章で学習した安土桃山時代と江戸時代のイラストを比べることで、2つの時代で大きく変化したことを捉えられるようになっていきます。さらに、安土桃山時代、江戸時代と室町時代とを比べる活動を設けることで、時代のつながりをより感じられるようにも工夫されております。

続いて、2点目ですけれども、このイラストが「タイムトラベル」に当たります。このイラストですが、単元の最初にも示されております。教科書に戻っていただいて、例えば26ページをご覧ください。章の最初にその時代のイメージを視覚的に捉えられやすいように工夫されています。また、このイラストからある場面を探したり、前の時代と変化した点に気づいたりすることができるよう工夫されているため、その単元の探究課題の設定につなげることができます。

2点目については以上です。

(荒川委員)

では、その歴史が苦手な子どもも取り組みやすいというのは、こういうイラストが豊富であって、それが分かりやすいみたいな、そういう感じで捉えてよろし

いのでしょうか。

(社会科担当指導主事)

おっしゃるとおりです。調査部会では、やはり本当の写真資料も大切ではあるという話が出たのですけれども、やはり最初にはこういったイラストで分かりやすく書かれているほうが、子どもにとって、生徒にとって学習に取り組みやすいであろうという話になりました。

(元木委員)

調査部会からは、東京書籍と帝国書院、事務部会からは帝国書院が推薦されておりますが、中学校専門部会の第2回議事録によりますと、探究的な学びという観点では東京書籍より帝国書院のほうの方が優れている、また、歴史をつなぐような工夫があるという点だけで帝国書院のみ推薦されています。東京書籍には、帝国書院よりも優れている点はないのでしょうか。また、総合的に東京書籍のほうの方が優れているということはないのでしょうか。教えてください。

(社会科担当指導主事)

東京書籍と帝国書院のどちらも探究的な学習、歴史的な見方・考え方を働かせた学習ができるという点については、工夫されています。ただ、その中でも、特に帝国書院については、先ほどから紹介させていただいている「タイムトラベル」があり、導入で当時の社会に対する興味関心を引き出すとともに、章の最後においても同じイラストを使うことで、学習の振り返りにも活用される構成となっています。その点が、探究学習として取り組みやすいということで、帝国書院は高く評価されました。

また、帝国書院は、資料が豊富に掲載されていること、単元課題を解決する上で分かりやすいことも東京書籍よりも高く評価されました。

総合的に帝国書院のほうの方が優れていると調査部会では判断し、帝国書院ということで推薦いたしました。

(元木委員)

1点確認なのですが、先ほど資料が豊富に掲載されているという話がありましたが、これはデジタルコンテンツも含めての話でしょうか。

(社会科担当指導主事)

この資料の量については、デジタルコンテンツでは比較していません。

(新倉教育長)

今の説明の中で、1点だけ確認したい。つまり、調査部会では東京書籍のいい点が、どこか見ているわけですね。でも、今は帝国書院のほうが優れている話になってしまっていて、調査部会のときに、その2つのものが挙がってきたときに、東京書籍の何がいいということで、調査部会では甲乙がつけられなかったのかを確認したかったのですが。

(社会科担当指導主事)

調査部会においては、やはり社会科の学習の中で単元の学習をどのように進めるかというところに、重点を置いて話し合われました。その中で、東京書籍については、単元の初めに探究のステップが示されているところが、学習内容を見通しやすいということで評価をされました。

(新倉教育長)

帝国書院にはそれがないけれども、それ以上にほかの部分があるから、先に書いてある東京書籍よりも優れているのだと皆さんは判断したということなのですか。単元の学習において行うということが前提だったとしたときに、初めにまとまっているものがほかのはあったのだけれども、これは帝国書院にはそれはないけれども、総合的にほかのところのほうが、東京書籍にあったものは、ある意味それよりもより価値があったのだという比較をしたということでもいいのですかということだけ。

極端に言えば、東京書籍にあったそれはなくても構わないのだと、皆さんが単元の学習の中でも確認取れたということなのですかということになるかなと思う。

(社会科担当指導主事)

なくてもよいかという検討は、調査部会では具体的にはしておりません。ただ、この単元の最初にどのように子どもたちが学習を進めるかといったときに、この単元のステップとして見通しがあることも大事ですけれども、やはりこの「タイムトラベル」によって、子どもたちが興味関心を持って学習を単元を進めていくということを調査部会では評価されました。

(新倉教育長)

私が言っているのは、調査部会ではそういう評価をした、単元の頭があったのだ。でも、それを事務部会にいったら、事務部会はその単元の頭のところら辺、東京書籍より「タイムトラベル」の帝国書院のほうがいいという判断をしたとい

うことは、事務部会では単元の頭にまとめがあるかないかということの価値判断よりも、「タイムトラベル」のほうを取ったということなのでしょうと聞いているわけ。そうすると、そこは基本的になくてもよかったということになってしまふよねということの念押しなのです。

(社会科担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおりです。

(澤田委員)

「タイムトラベル」が当時の社会に対する興味関心を引き出し、探究学習につながる点、ここは様々なイメージが湧き楽しく学べると思っています。「アクティブ歴史」については、これまでの内容をさらに追及できるようなテーマが扱われているとありますが、これは発展的な学びという捉えで、個々の生徒によって取り組み方が異なるのでしょうか。

(社会科担当指導主事)

アクティブ歴史は、具体的なテーマについて、単元の学習を生かして追究することで学びを深めるページです。具体的なページとしては76ページをご覧ください。こちらでは、テーマに武士の暮らしからどのようなことが分かるだろうかというようなテーマが立てられております。このテーマに対する答えは1つではないため、追究方法や考えは個々の生徒によって異なることが想定されます。しかし、意見交換や発表する学習活動も設定されているため、取り組み方が生徒によって全く異なるということはないと考えております。

(元木委員)

今のお話、説明によりますと、基本的に歴史を学んでいく中で、授業内でグループワークのような授業の仕方というのは展開されるかどうか、教えていただきたいのですが。基本的にこの教科書使いながら、先生が説明して、その後、グループで話し合うような機会というのは取る時間はあるのでしょうか。

(社会科担当指導主事)

今の市内で行われている授業では、毎時間課題があったり、単元の課題があったりしますが、それについて個々で調べたり、個々で考えたりした中で、それをほかの人はどのように調べたのだろう、考えたりしたのだろうということで、グループで話し合う活動がよく行われております。今、元木委員がおっしゃったように、最初に教師の説明というのは極力ないように減ってきているかなという

ふうな現状です。

(元木委員)

そういう形で授業展開、授業の仕方が変わってくるという話でいうと、一番最初にあったとおり、歴史が苦手な生徒さんがいたとしても、グループ内で話し合うことによって、そういった苦手な意識というところも薄れてきて、全体として学びやすくなっていくというような理解でよろしいでしょうか。

(社会科担当指導主事)

おっしゃるとおりです。

(新倉教育長)

ほかに質問はないようですので、討論に入らせていただきます。
何かご意見等ありますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、社会(歴史的分野)の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校社会(歴史的分野)につきましては、『帝国書院』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『帝国書院』を採択候補として決定をいたします。

(新倉教育長)

それでは、次に、社会(公民的分野)について、採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校社会(公民的分野)は、発行者6者のうち東京書籍と帝国書院の2者を

答申いたします。

東京書籍は、生徒が見方・考え方を働かせて探究学習を行うための工夫がされています。また、文章による説明や思考ツールを使った活動が充実しており、様々な立場や条件から考察できる点が優れています。

帝国書院も、生徒が見方・考え方を働かせて探究学習を行うための工夫がされています。また、実生活とつながる事例や問い、資料が豊富であり、内容も充実していて、考え方や取り組み方が丁寧に説明されており、生徒が学び方を学ぶことができる点が特に優れています。

2者とも本市中学生の社会の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま、教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、社会（公民的分野）については、東京書籍と帝国書院の2者を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいま、教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明がありましたが、これに対してご質問ありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、次に、社会（公民的分野）の教科書について、教育指導課長から提案のありました東京書籍と帝国書院の2者のほかに、委員の皆様の中で、採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、それでは、社会（公民的分野）の教科書についての質問をお伺いいたします。

それぞれの候補本に関して何かご質問ありますでしょうか。

(澤田委員)

社会科として、地理、歴史が帝国書院ですが、公民も同一出版社でという話は出なかったのでしょうか。地理、歴史との関連性、教科書構成等はいかがでしょう。

(社会科担当指導主事)

調査部会においては、社会科として同一出版にそろえるという視点では検討していません。横須賀市の生徒にとって、どの教科書が適しているかという視点で調査・検討し、結果的に同じ出版社になりました。とはいえ、同じ出版社になることで、教科書や大単元や小単元の構成が同じであることは、生徒にとって学びやすいのではないかと。また、表紙の色が同系色にならず、間違いにくいのではないかと。という話は、各分野の調査・検討が終わった後に話題としては出ました。

例えば、表紙の色についてですけれども、帝国書院の歴史は茶色系統で、東京書籍の公民も茶色系統になりますので、こういったところでの間違いはないのではないかと。という話は、検討が終わった後に出ました。

(荒川委員)

では、私から3点質問させていただきますが、3つまとめて質問させていただきます。

まず、1つ目なのですが、会議録12ページには、2者とも対話的な学習ができるような工夫が優れているとのことですが、実生活につながる事例で、2者の違いや特徴などがあれば紹介していただきたいと思います。

ということと、2つ目なのですが、採択資料8ページの(イ)と(エ)に、帝国書院は他教科との関連について記載されているとの記述がありますが、具体的にはどのような内容でしょうか。また、東京書籍には他教科との関連については記載がないのでしょうかということをお教えください。

3つ目なのですが、採択資料8ページの帝国書院の特に優れていると判断した理由の中に、生徒が学び方を学ぶことができるという記述がありますが、具体的な内容を紹介していただければと思います。

以上3点、よろしくお願いいたします。

(社会科担当指導主事)

まず1点目についてです。東京書籍は、大単元の導入で実生活とつながる活動があります。例えば78ページ、こちらは架空の都市の市長選挙で、公約を参考に

市長を選ぶという活動。また、130ページ、こちらはコンビニエンスストアのイラストから、様々な立場から経済を捉える活動などが設けられています。

次に、帝国書院は、116ページのように、大単元の導入で実社会の様子イラストが使われております。そこから関連する場面を見つける活動を行い、単元の学習に入っていけるようになっております。イラストが掲載されている点では、東京書籍と同様ですが、全ての大単元の導入がイラストであることが、2者の異なる点です。また、帝国書院は大単元の最後に再びそのイラストを使って振り返ることで、各単元で学んだことがどのように実社会に活かされているかを捉えやすくしている点も特徴的です。また、帝国書院については、166ページにあるような特設ページ、アクティブ公民においては、実社会とつなげられるような学習活動が用意されています。

続いて、2点目です。他教科との関連についてですが、東京書籍にも他教科との関連についての記載はあります。ただ、帝国書院は見開きページの下部に、小学校、地理、歴史、他教科との関連というものが必ず記載されています。その中で、例えば経済活動の家計と消費について学習する122ページには、消費生活(家庭)というように示されています。

最後、3点目ですけれども、生徒が学び方を学ぶことができるという点ですが、巻頭5ページ、帝国書院5ページで学び方について説明がされており、そこでは単元を通した学びと毎時の学びが記載されています。また、4ページ、6ページを見ていただくと分かるように、各見開きページには、小単元に当たる節の問いが掲載され、常に問いを意識できる工夫がされているとともに、11ページなどの節の最後には、節の問いをまとめようが設けられています。また、24ページのように、単元の最後は各節の学習を振り返り、それを参考に単元の問いをまとめる形となっています。これらの繰り返しによって生徒は学び方を学べると、調査部会では話に上がりました。

以上です。

(新倉教育長)

今の点に関していうと、ほかの教科書には単元をまとめるものがないということなのですか。それとも、単元のまとめが分かりやすくつくられているという評価なのですか。そこが分からないのだけれども。

(社会科担当指導主事)

他者にも単元のまとめをするページはあります。ただ、先ほどの歴史とも重なるところであるのですが、公民も大単元の最初にイラストによってその単元、大単元の導入を行います。この導入で使ったイラストを基に、また最後に単元をま

とめるという活動があるため、一貫した学習ができるということで、調査部会としては高く評価されました。

(澤田委員)

採択資料の(イ)で、東京書籍は「目次に災害の写真に対する記載がされており、大変配慮されている」とありますが、どのように配慮されているのでしょうか。

(社会科担当指導主事)

東京書籍の特徴的なところですが、東京書籍の目次2ページ、3ページです。この目次において、3ページの下の部分ですけれども、火山の噴火、地震や津波、土砂崩れなどによって起こった災害の写真が扱われているページにはマークがつけられており、指導する際の配慮を促すような記載があります。具体的には、目次のページの第5章2節の4、気候変動と資源エネルギー問題の横にマークがあつたり、こういったページには災害に関するものがありますよというような配慮がされております。これは、東京書籍の特徴と判断をされました。

(元木委員)

改めてご説明を聞いた上での話なのですけれども、やはりこの2者とも同じような特徴があると、似ているなというところで、なかなか甲乙つけがたい形があるかと思えます。

今、(イ)と(エ)につきましては、具体的な話を聞いたのですが、併せて(ア)と(ウ)と(オ)について、具体的な例を示していただければと思います。よろしくをお願いします。

(社会科担当指導主事)

具体的な事例として、まず(ウ)を紹介させていただきます。

(ウ)については、生徒が現代社会の見方・考え方を働かせる学習ができるための工夫や配慮についてですけれども、こちら、東京書籍では、見方・考え方を働かせるマークが様々例示に働かせる視点とともに記載されています。具体例としては、141ページの虫眼鏡マークとともに効率・公正と書かれています。帝国書院では、巻頭8ページに現代社会の見方・考え方について具体的な事例を示しながら説明されています。また、166ページ、167ページのアクティブ公民や、210ページ、211ページの「章の学習を振り返ろう」のように、具体的な事例を通して働かせる見方・考え方が様々なページにあります。

(ア)と(オ)については、2者とも工夫・配慮がされており、調査部会での

評価としては、大きな差はなかったのが現状です。

(元木委員)

分かりました。ありがとうございます。

(新倉教育長)

それでは、質問がなくなったようですので、質問を終わらせ、討論に入らせていただきますが、何かご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、社会(公民的分野)の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

今回、『東京書籍』と『帝国書院』で各委員の投票をお願いさせていただきます。

事務局が投票用紙を配付、各委員記入、事務局が回収して結果発表

(事務局)

それでは、結果を発表いたします。『東京書籍』0票、『帝国書院』5票。
以上でございます。

(新倉教育長)

投票の結果、社会(公民的分野)については、総数で『帝国書院』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

続いて、中学校地図について、採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校地図は、発行者2者のうち、帝国書院を答申いたします。

帝国書院は、扱われている地図が見やすく、また、同じページ内の地図の大きさ及び範囲などが統一されている点が特に優れています。さらに、主題図、統計

資料が豊富に掲載され、探究学習を進める際に大変使いやすい点から、これを推薦します。

本市中学生の地図活用の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま、教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、地図については、帝国書院を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について、ご質問がありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、地図の教科書について、教育指導課長から提案のありました帝国書院のほかに、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、それでは、地図の教科書について質問に入らせていただきます。

候補本に関して、何か質問がございますでしょうか。

(澤田委員)

採択資料の(エ)で、「2021年のデータを採用している」とあります。また、(カ)では、二次元コードで統計資料等にアクセスできることが記載されています。この統計資料は、2021年データも随時更新され、それも閲覧できるということでしょうか。

(社会科担当指導主事)

二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツの統計資料については随時更新され、閲覧できると聞いております。

(澤田委員)

そうしますと、(エ)で2021年のデータを使用しているというのは、教科書上(紙面上)という捉えと考えるとよいのでしょうか。

(社会科担当指導主事)

おっしゃるとおりです。

(澤田委員)

分かりました。

(新倉教育長)

今のに関連すると、他者のは2021年より古いデータだということなのですか。

(社会科担当指導主事)

人口データ等については、東京書籍は2020年度の資料が統計資料として記載されております。

(新倉教育長)

東京書籍なども二次元コードは新しいのが見られるということなのですか。

(社会科担当指導主事)

デジタルコンテンツで見られるものについては、どちらも随時更新と聞いております。

(新倉教育長)

そうすると、直近で採択したときの本の中に、2020年度と2021年度のデータがあったとしても、結果として使っていく中では、両方とも古いものになってしまう。二次元コードであれば正しい年度が見られるということになると、この2つを比較するなりしたときに、2021年度だからいいという理由にはならなくなってしまうのですよね。そこが分からないのだ。

(社会科担当指導主事)

おっしゃるとおり、デジタルコンテンツを使用して学習する上では、同じになるかと思いますが、調査部会では、あくまでこの教科書に当たる地図帳を検討したときに、やはり、まずアクセスをするという点、手間というか、一手順を抜いて教科書を見たときに、より新しいものが帝国書院だったので、こちらをという話になりました。

(新倉教育長)

これだと、一般論で私もよく分かっていないので教えていただきたいのですが、今、この教科書採択をしているものというのは、一応検定を受けたものとはなっているのだけれども、まだ印刷がされているわけではなく、実際提供されるまでの間に、校正なり修正が利くと聞いているわけです。だとすると、こういったデータについて、仮に直近のものにしますと書いてあったとしたら、全て直ることが可能性あるわけですね。でも、これは直らないということが前提で、A社は2020年を、B社は2021年を使っているということで、採択の判定に使っているものなのか分からないのですが。

何が言いたいかというと、報道等でご承知だと思うけれども、現在、その教科書に入っている芸能人の写真は、次の配本までには入れ替えるからということで、そのまま修正された形でこういった現場に掲示をされていると聞いているので、だとすると、データ修正というのがもし可能できちんと行うという確約が取れていたら、ここの判断材料にはならなくなってしまうのではないかなと思っただけですが、その辺分かりますか。

(社会科担当指導主事)

その紙面のデータが変わるかどうかということについては、確認をしていなかったために、調査部会でそういった話題にはなっていません。調査部会では、あくまでこの今の教科書採択の際に配布されたこの地図帳を使用しての比較をしたので、データの差し替えといったところについては、検討していないのが実情です。

(新倉教育長)

これ、今さらどうこう言ってもしょうがないのですけれども、意見としてこれから確認を絶対していただかなければいけないのかなと思う。二次元コードで直近のデータが読み込めるということになってくると、紙面に古いデータを書いておくということは、これは非常に悪いことになってしまってくる。そうすると、データは全て二次元コードで見てくださいという教科書になってしまうの

ではないかと心配をしているのですね。

だから、そうすると、教科書に記載されているデータというのは、ある意味、全く価値のないものになってきてしまうから、それで教科書の採択というのは難しくなるのではないかなと思ったので、これは意見だけでいいです。

(荒川委員)

採択資料9ページの(オ)に、持続可能な社会をテーマにした内容が充実しているとの記述がありますが、具体的な内容を幾つか紹介していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

(社会科担当指導主事)

8ページから14ページにある地図で考える持続可能な社会というページがあります。ここもたくさんページを割いているところではありますが、SDGsについて考察できるようなページは、このほかにも複数あります。

例えば、世界の諸地域に関するページでは、47ページ、48ページ、②砂漠化が進むサヘルと都市の人口集中、③貧困率と栄養不足の人口、⑤言語分布と紛争があります。また、日本の諸地域としては、115ページ、116ページの⑥琵琶湖・淀川水系の水利用、琵琶湖の透明度や、⑫尾鷲の林業などが取り上げられております。

(荒川委員)

ありがとうございます。

(元木委員)

実際にこの地図帳を授業内で使うときというのは、今言った統計資料などについては、教科書で見て、さらにデジタルコンテンツを見に行ったりとか、そういう形で使う予定でしょうか。それとも、教科書メインでの活用になるのか、授業形態を少し教えていただければと思います。

(社会科担当指導主事)

調査部会で話になったのは、あくまでこの地図帳を紙として使用していく。ただ、そこには記載されていないものも、またデータが新しくなっているものもあり得るので、そういったものについては、デジタルコンテンツにはほかの資料が、これ以上の資料がありますので、そちらを使用する形になるだろうという話にはなりました。

(元木委員)

ということになりますと、デジタルコンテンツもある程度ほかの科目に比べて活用する機会というのは増えてくるのかなと思うのですね。そういった場合に、横須賀市として、このデータの扱いの方針みたいなのはあるのでしょうか。この部分については、デジタルコンテンツを見るように、といった方針みたいなものですね。

(社会科担当指導主事)

この部分についてはデジタルを、この部分については紙面でというような方針をこちらとして示すことはこれまではありませんでした。

(元木委員)

今後そういう形の方針というか、活用の仕方というものの、横須賀市として指導していくということはないのでしょうか。

(社会科担当指導主事)

このデータについて、これを、デジタルをというような指定は、今後もないかなとは思っています。ただ、このデータについてはデジタルコンテンツにもありますよとか、またはデジタルコンテンツであれば、この資料は更新されていますよというような紹介はできるかと思えますけれども、必ずそのデータについて、あるデータについてはデジタルを、あるデータについては紙をというように指示することはないかと、そこは各教科担任が子どもの様子に応じて判断をするところかと思えますので、こちらとしては必ずということはないです。

(新倉教育長)

ごめんなさい、それは個人的見解だと思うので。そうではなくて、今のは大変貴重な委員さんから提言であるので、逆に教育委員会として、今後どう扱うかについては、きちんと検討するという回答をいただかないと、意見でも何でもなくなってしまうし、提言でもなくなってしまうから。書いてあるから、その数字を教えればいいのだということだったら、今ここまで来ているデジタルできちんと見られて、直近のデータが分かると言っていることを使う必要がなくなってしまうではないですか。これについては、悪いのですけれども、学校教育部と教育指導課長がきちんとしっかりと回答してください。

(教育指導課長)

ご指摘をいただいたとおり、また、冒頭でも数がこれだけ増えてきている中で、

どれを選択し、どれを活用するかというふうなことは、引き続き調査研究して、学校のほうに指導、助言していかなければならないと課題として捉えておりますので、今、元木委員からご指摘いただいた点についても、慎重に検討しながら進めてまいりたいと思います。

(元木委員)

ご説明いただいたとおり、デジタルコンテンツ、非常に数が増えているというところで、1教員がこれを使って、あれを使ってというのはなかなか判断が難しいというところがあると思います。さらに、教員によって使う使わないというのを各個人で行っていくと、教育の質ですね、授業の質というものも変わってくるかと思えます。そうすると、担当の先生によって、教育内容、授業の中身というのも変わってきますので、そこは横須賀市として、できるだけ統一した形での授業展開をしていただきたいと思えます。デジタルコンテンツの活用の仕方などについて、横須賀市として方針等で決めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(新倉教育長)

それでは、ほかに質問ないようですので、討論に入らせていただきますが、何かご意見ございますか。

今の元木委員の部分につきましては、先ほどありましたように、きちんとした討論における意見として取り上げさせていただきたいと思えます。

(意見なし)

(新倉教育長)

他にご意見ないようですので、地図の教科書に関する審議は終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校地図につきまして、『帝国書院』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

異議ないようですので、『帝国書院』を採択候補として決定いたします。

少し中途半端な時間になってしまいますので、ここで午前中の部は、休憩に入らせていただきます。

再開は13時からということでお願いをさせていただきます。お疲れさまでした。

午前11時54分休憩

午後 1 時00分再開

(新倉教育長)

それでは、午後の部を始めさせていただきます。

中学校数学の教科書について、採択候補の決定を行ってまいります。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校数学は、発行者7者のうち学校図書の1者を答申いたします。

学校図書は、資質・能力の3つの柱で整理された目標を踏まえ、深い学びにつながることを意識した構成となっています。領域のつながりを意識し、系統的な学びができることが期待できます。データ分析においても、批判的な考察ができるよう工夫されています。

本市中学生の数学の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、数学については、学校図書を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からのただいまの説明につきまして、質問がございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、数学の教科書について、教育指導課長より提案のありました学校図書のほか、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書はありますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、数学の教科書について質問をお伺いいたします。候補本に関してご質問があれば、どうぞご質問ください。

(元木委員)

調査部会からは東京書籍と学校図書、事務部会からは学校図書が推薦されておりますが、中学校専門部会の第2回議事録によりますと、小中のつながりという観点では学校図書のほうが小学校の学びを振り返りながら学べるということで、数学に苦手意識を持っている生徒さんにはいいというような説明がありました。ただ、一方でより深く学びたい、新しいことを学びたい生徒さんには東京書籍のほうが合っているかと思うんですが、いかがでしょうか。この振り返りがあるからという理由だけで東京書籍を除外してよいのでしょうか。まずその点について、よろしくお伺いいたします。

(数学担当指導主事)

確かに調査部会の発言に、振り返りがあるからとありましたが、振り返りがあるなしで最終的な判断をしたわけではなくて、様々な観点から総合して判断されています。よりよく学びたい、新しいことを学びたいという生徒の思いに沿えるかどうかという視点では、2者とも学習を深めたり、発展的に考えたりすることができるような工夫がされています。

例えば、東京書籍で言えば1年生の83ページや2年生の151ページ、この2か所だけではありませんが、深い学びというページが設定されています。学んだことを生かして問題解決し、さらに条件を変えるとどうなるかなど、発展的に考えるきっかけとなるようになっています。

学校図書も同じように、深めようというページがありまして、例えば2年生の178ページや3年生の212ページ、これも今、2か所しか紹介しておりませんが、各学年に設定されております。ここも同じように、学んだことを生かし、さらに深める、広げるきっかけになるように設定されています。

さらに、学校図書のほうは「Tea Break」というものがありまして、例えば、1年生の77ページの下のほうに、高等学校の上位学年ではありますが、きっと生徒たちが疑問に思っているだろうなというものが書かれていたりとか、2年生ですと77ページをご覧ください。すみません、2年生は137ページでした。失礼いたしました。三角形の合同条件を学んだ後、じゃ、四角形の合同条件は、五角形はというふうに、子どもたちが疑問に思うであろう内容が示されているとともに、上位学年で扱う内容が多く含まれていることから、興味関心を持つこと、それから、主体的に学ぶきっかけになるというふうな話が出ておりました。

(荒川委員)

私からは2つ質問させていただきます。

まず、採択資料10ページ(ア)に、各領域の小中のつながりを意識した記述があることで、系統的な学びが可能になる点が優れているとの記述がありますが、具体的な内容を幾つか紹介していただきたいと思います。

次に、採択資料10ページ(ウ)に、日常的なことから問題を見だし、それを解決することで理解を深めていく流れになっているとの記述があります。また、会議録15ページには、例題として挙げられている事例は身の回りのことが多く、現代における環境問題を扱っており、考えを深めるための工夫がされているとの記述もあります。具体的にどのような日常の問題が提示されているか、また、環境問題についても幾つか事例を紹介していただければと思います。よろしくお願いたします。

(数学担当指導主事)

数学では、領域のつながり、系統性をとても大切にしております。数と式、図形、関数、データの活用の4領域がございます。例えば、関数領域において小学校で比例、反比例を学びます。その学びの下に、中学1年生でさらに比例、反比例について学びを深め、中学2年生では一次関数、中学校3年生では2乗に比例する関数を学びます。領域における系統性がとても大切になってきます。よって、単元が始まる前に「ふりかえり」というページがございます。

例えば、1年生128ページをご覧ください。一次関数のはじめに、小学校でどういうことを学んできたのか、また、同じく1年生の242ページをご覧ください。これは、データの活用の前に「ふりかえり」が設けられていますが、これだけ多くの用語を小学校で学んできます。そういうふうに、小学校で学んだことを振り返りながら、中学校での学びにつなげていくことができます。図形領域においても同様で、例えば二等辺三角形とか平行四辺形、これは小学校でも学びます。ただ、小学校で学んだことを演繹的な推論によって性質を確かめていくのが中学

校です。そうやって小中のつながりを意識して次の単元に入ることができるようになっていきます。

2つ目の質問ですが、1年生では278ページ、「さらなる数学へ」という協働学習のページに、海面水位の上昇を抑えるためにできることを考えようをテーマに、世界平均気温の変化と世界平均海面水位の変化のグラフから予測して考える内容が挙げられています。2年生では202ページ、データの活用領域で、各地での雨による土砂災害を取り上げ、降水量の変化を取り上げています。また、3年生では262ページに、1年生同様、「さらなる数学へ」というページで、エシカル消費についてできることを考えようをテーマに、ごみ排出量とリサイクル率について表したグラフや、日本のエシカル消費への関心度を調べたデータから考えることができるようになっていきます。

(荒川委員)

ありがとうございます。

2つ目の質問のこの環境問題とかということについては、ほかの者よりも多く取り上げられているというふうに考えていいのですか。

(数学担当指導主事)

2者挙げた東京書籍も同じように、身の回りの物とか、あと、環境問題、またはキャリア教育といった、数学と仕事との関係とかというものもあって、正直どちらとも同じように取り上げられているのが事実です。

(荒川委員)

同じように取り上げられてはいるけれども、よりこちらのほうが横須賀の子どもたちにとってはいいのかなというような判断をなされたというようなことなんでしょうか。

(数学担当指導主事)

この身近なものというところでは、どちらかというところではより学校図書がそういう推移になっているという意見は出ていませんでした。

(荒川委員)

内容は総合的に判断されたという。この問題としては他者のほうが優れている部分もあるけれども、全体的に総合したときには学校図書のほうが優れていたというようなところですね。分かりました。ありがとうございます。

(元木委員)

もう一点よろしいでしょうか。

採択資料の10ページの採択の観点の(エ)についてです。数学的な表現を用いて、論理的に考察する点についてどのように評価したか、詳しく教えてください。

また、統一した視点で振り返る場面が設けられているということですが、考察の視点が様々になりますので、振り返りの視点を統一することはなかなか難しいかと思いますが、この統一した視点で振り返るといのは具体的にどのようなことを示しているかを教えてください。よろしくお願いします。

(数学担当指導主事)

例えば、2年生の一次関数の利用において、時間と温度にはどのような関係があるか考察するために、表、式、グラフを目的に応じて活用できるような工夫がされています。また、図形の証明等においても、推論の過程が図で視覚的に捉えやすくなっているかどうかという点です。

例えば、学校図書の2年132ページをご覧ください。図で視覚的に捉えやすくなっています。証明というのが、ちょうど2年生から本格的に始まります。そのときに、書くことだけではなくて、図と書くこととの行き来ができるようになっていくかどうかというところで見えています。

後半にあった振り返りについてです。統一した視点で振り返るといのは、ある問題に対してではなくて、3年生、例えば、38ページのように、単元での学びを振り返る際に、何章を学んでできるようになったこと、さらに学んでみたいことの2つの視点で統一されているというところで話がありました。

(元木委員)

整理しますと、考察の仕方については様々な視点から見ていくというところはこの数学的な、論理的な考え方という点ではいろいろな方法があるというところは説明しつつ、振り返りの、自分が学んで理解したところを振り返るとい視点では統一されているということで、意味が違うということですね。

(数学担当指導主事)

そうですね。ちょっとこの1つの問題に対しての考察というよりは、この振り返りは単元を通した中での自分自身の学びの自覚というところですね。

(元木委員)

なので、考察については先ほどあった地理と同じ形で、思考ツールみたいな形でいろんな視点から見たりとか、図に表したりとかというところのやり方につ

いてはいろいろ紹介されており、かつ、その振り返りで自分の理解度をはかるという尺度が統一されているという考え方ですね。分かりました。ありがとうございます。

(新倉教育長)

私から1点だけ、説明の中でずっと言われているのが、資質・能力の3つの柱でと言われているんだけど、資質・能力の3つの柱とはどういう意味。3つというと、3語なきやいけないのかなと思うんだけど、資質の中に3本があって、能力の中に3つ柱が立っているの。

10ページのところで、調査部会からの最後に、特に優れているという判断のこの理由で、資質・能力の3つの柱で整理された目標というのが、通常考えたら、3つといたら、その前に言葉が3つなきやいけないんだけど、そうではなく、資質の中に3つ、能力の中に3つ柱があるの。

(数学担当指導主事)

資質・能力というものに対して3つですね。知識、技能、思考、判断、表現、学びに向かう人間性。

(新倉教育長)

仮にそうだとすると、そういうふうにちゃんと整理して書かないと、誰も理解できなくなるんじゃないでしょうか。それが本当にこの教科書には全てそろっているんですか、ほかの教科書ではそれぞれランクをつけたらどうなんですかというところが、採択の判断基準だとすれば、ほかよりもここはその言っているところの能力、柱というものの何が一番ずば抜けてよかったんですか。平均点で全部よかったんですかというところを知りたいんですけども。

(数学担当指導主事)

学校図書の方では、「Question」というところから学びが始まります。横須賀市の子どもたちの現状として、問題を与えられても、何から手をつけていいかわからないというところがあります。学校図書の方には、「Question」のところに、まず右側に見方、考え方、これは全教科、数学の見方、考え方を働かせ、数学的活動を通してという2つのものが絶対、これを基にして学んでいくんですが、その見方、考え方が書かれているというところが知識・技能、思考・判断・表現、それから、主体に向けて、これから何に着目して学んでいくか、考えていくかというところの視点があることがよいこと。

あとは、中央に子どもの登場人物の吹き出しがそれぞれ書いてあります。これ

も、これからどういう視点で学んでいけばいいのか、何に着目していけばいいのかということが明確にされているところが、その3つの資質・能力の育成のきっかけとなるんじゃないかという話が挙がっておりました。

(新倉教育長)

今、教育委員会としての横須賀の子どもたちの足りない部分というものがそう分析されているんだ、だから、それに見合った教科書をとっているんだけど、今のその弱いというのは、逆に言えば中学校で生まれているのではなくて、小学校から生まれていることだよ。だとすると、先ほど来挙がっている学びのつながりという部分で、仮にこの教科書を採用する際に、ほかの小学校のときの採用教科書とちゃんと連動して、それができているのかということが問題になるかなと思う。今回は、今選ぼうとしている教科書が小学校でも扱っているんだったら、小学校でもそれがうたわれているというふうに理解していいんですかということなんです。

(数学担当指導主事)

今年度より、小学校では教育出版を使っております。教育出版で、はてな、なるほど、だったらという学びのプロセスで学ぶようになっていきます。同じように、この学校図書も、はてな、なるほど、だったらという言葉ではありませんが、まず疑問を持つ、納得する、それから、だったら、もっと条件を変えてみようとか、発展的に考えてみようという流れについては同じプロセスになっております。なので、教育出版と学校図書と違いますが、特にそこについては問題がないかというふうな話が出ておりました。

(新倉教育長)

ほかに質問ないようですので、討論に入らせていただきます。
何かご意見ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

あえて私のほうから、意見というよりは、今、先ほど質問にあったように、少なくとも小学校と中学校との流れが分断しないように、今、これ中学校の選考だけになっちゃっているんですけども、本来なら小中をどのようにつなげていくかということが必要になるのかなというふうに思うと、ちょっと選考のときに中学校だけで選んでいいのか、小学校の意見も聞くべきなのかということが

非常に大きな課題になるかなというふうに今思っていますので、これについては今後の教科書選考に関してはちょっと検討すべき要素としてやっていただけないかなと思う。

本来、小中一貫、あるいは一緒にやっていくべき話が、どうも小学校と中学校で分断しちゃっている。だから、使う教科書も変わる。あるいは、どこまでのレベルでやっているから、その子どもたちを次の教科書へ引き継いでいいかというところがちょっと不明確になっているかなと思いますので、ちょっとそこは検討していただけないかなというふうに思っています。

他にご意見ないようですので、数学の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校の数学につきましては、提案いただいている『学校図書』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『学校図書』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

次に、理科について採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校理科は、発行者5者のうち東京書籍を答申いたします。

東京書籍は、単元を通した学習課題や既習事項を明確に示すことが学習のまとまりにつながり、探究的に学習を進めるための工夫となっています。また、学習者にとっても教員側にとっても学習の展望が見通しやすく、大変優れている点も理由です。

本市中学生の理科の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、理科については、東京書籍を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明についてご質問ありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、理科の教科書について、教育指導課長から提案のありました東京書籍のほかに、委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

では、理科の教科書について、東京書籍についての質問をお伺いいたします。候補本である東京書籍について、何かご質問ありますでしょうか。

(澤田委員)

議事録の17ページの事務部員の発言で、「以前のものより小さくなっており、写真等が適切な位置にある点」と記述されています。「以前のものより小さくなっている」というのは、これは教科書の判のことでしょうか。判が小さくなった中で、写真等が適切な位置に配置され、図や表が充実しているという記述、この文章、分かりにくいので、補足していただけますでしょうか。

また、支援が必要な生徒にとっても取り組みやすい点を挙げていますが、これは図や表の充実で視覚的なことを指しているのでしょうか。

(教育指導課長)

まず1点目のご質問についてです。

澤田委員おっしゃるように、議事録にはそのような記載がありますが、実際には、こちらが今まで使われていたもので、こちらが新しいものです。判型が変わったということが1つで、紙面の面積は、議事録にあるとおり僅かに小さくはな

っておりますが、判型が変わったことによって、写真や図のレイアウトが改良された、より見やすくなっていますし、例えば、今までちょっと別なページに図がずれてしまっていたものが、本文とリンクして見やすいような形にレイアウトが改良されて、今までのものよりもより優れたものになっておりますし、他者と比較しても、その辺十分配慮されているなというふうな評価がありました。

それから、2点目の支援が必要な子どもたちに対してというふうな点についてですが、例えば、3年生の11ページから始まる水溶液とイオンのページにおいて、しばらくめくっていただくと、モデル図が多く掲載されていることがご覧いただけるかなと思います。写真や言葉だけでは分かりづらいものを、イメージしやすいように図で示してくれてあるというふうな配慮。また、このモデル図も、細かいことですが、例えば水素イオンはずっと薄いブルーの色で示されていて、ページが変わるたびに変わってしまうと、配慮が必要な生徒はそれだけでも混乱してしまうようなことがあるのですが、そういった部分にも十分配慮がされているなというふうな評価をしております。

それから、1年生の今度は教科書、154ページをご覧いただけますでしょうか。こちらは、138ページから始まる身の回りの現象の学習の中で、凸レンズによる像のでき方ということについて記載されているページですが、実験の行い方とともに実験とリンクした表が示されていて、調べることとか比較する対象が明確になるように工夫がされているようなページです。実験をやるよと言うと、子どもたちの興味関心を引きつけやすいんですが、何の観察の視点も持たずに実験が始まってしまって、実験によってはあっという間に、一瞬でその事象が終わってしまってというふうなことでつまづく子どもたちが多いということを踏まえて、このような工夫がされていると、十分配慮されているなというふうな評価をしております。

(荒川委員)

採択資料11ページ(エ)に日常生活に関する写真や図があり充実している点や、コラムなどで日常生活や他教科との関連が示されている点、さらに、職業インタビューが掲載されている点が、生徒の主体性を高める上で効果的との記述がありますが、具体的な事例を紹介していただければと思います。よろしくお願ひします。

(教育指導課長)

まず、日常生活に関連する写真ということにつきましては、主に単元のまとめに記載されているものが充実しているなというふうに評価されています。

例えば、1年生の98ページをご覧いただけますでしょうか。一番下のところに、

「なるほどね」というところで、混ぜるな危険というタイトルで写真が示されています。これは、91ページから始まる気体の性質という学習のまとめに当たる部分なのですが、身の回りにある洗剤や漂白剤の中で、混ぜ合わせると危険な気体が発生するものがあるということについて、写真で触れています。

また、100ページの、今度は上のほうですね。「町なか科学」というところ、身の回りの気体というタイトルで、メタンやプロパンなどが紹介をされています。学習したことがこうやって身近にあるんだというふうなことに触れて、子どもたちの関心を高めるというふうな工夫として評価をしております。

それから、他教科との関連の具体例としては、1年生の62ページをご覧くださいませでしょうか。これは、45ページから始まる動物の分類の学習のまとめに当たる部分なのですが、「学びを生活や社会に広げよう」というコラムの中で、衣食住とのつながりが扱われています。また、同じ1年生の教科書159ページから、音の世界という学習が始まるのですが、多くの楽器を活用しての実験が紹介されていて、ここも他教科との関連というふうなところでは評価される部分かなと思っております。

最後に、職業に関連する記載の具体例をご紹介しますと、3年生の教科書91ページをご覧くださいませでしょうか。上のところに、お仕事図鑑、おいしいイチゴをつくる仕事というふうなことで、これは72ページから始まる生命の連続性という学習のまとめに当たるところです。イチゴの新品種の開発に関する仕事について触れています。ここで生徒が学んだことが具体的に社会にどのようにつながっているのかを知る機会となっていて、生徒の主体性を高める上で有効な記載であると、そのように評価をしています。

(荒川委員)

ありがとうございます。

(元木委員)

2点質問があります。

まず、1点目は小中のつながりという観点ですと、何か工夫されているかという点と、もう一点が採択の視点の(ウ)についてなんですが、考察・実験の目的が明確、共通点、相違点に着目する点が示されていることが科学的に探究する力の育成にどのようにつながっているかがちょっと分からなかったです。科学的に探究する力というのは、自然の事物、現象について観察、実験を通し、自ら課題を発見し、解決に導いていける能力だと思っております。特に、自ら課題を発見して解決に導いていくという点に関して、この教科書の優れている点について教えてください。よろしく願いいたします。

(教育指導課長)

まず、1点目のご質問、小中のつながりという点についてですが、各単元の始まりにこれまでに学んだことという記載があり、既習事項について触れています。

例えば、1年生の160ページをご覧くださいませでしょうか。これは、138ページから始まっている身の回りの現象の学習の一部で、音の伝わり方というところなのですが、ページの中央寄りのところに星印1、これまでに学んだことということで、音の性質、小3というふうなことで、このことについては小学校3年生で学習したことであることが記載をされています。

また、2年生の176ページをご覧くださいませでしょうか。これは、166ページから始まっている天気とその変化の学習の一部なのですが、この176ページで注射器の中にスポンジを入れた実験が紹介をされています。この実験は小学校段階でも扱われることが多い実験なのですが、観察されることを学習内容と関連づけて、改めて整理するというふうなことで、小中の学びのつながりについての工夫がされているというふうに評価をしています。

次に、2点目のご質問ですが、確かにこの記載ではちょっと分かりづらい点があったかと思いますが、まず、自ら課題を発見し、解決に導いていくという点に関しては、各学年の教科書の冒頭のページ、1年生を例にとると、③という数字のページから4ページにかけて、探究の流れを確認しよう、教科書の使い方を押さえよう、考察はここを押さえようなどのページがあり、課題設定や課題解決などの学習活動を展開することを意図した、そのような構成になっています。

また、単元の導入時に活用しやすい写真を掲載するなどの工夫がされており、生徒が学習を身近に感じ、その後の学習につながりやすい記載になっています。さらに、単元の展開が分かりやすく、単元全体の見通しを教師側も、また、生徒側、双方が持ちやすいことも課題解決に導いていくという点で優れているというふうに捉えています。

以上です。

(新倉教育長)

ほかに質問ないようですので、討論に入らせていただきます。

何かご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、理科の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校理科につきましては、『東京書籍』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

異議ないようですので、『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に音楽（一般）について採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校音楽（一般）は、発行者2者のうち、教育芸術社を答申いたします。

教育芸術社は全体の構成が見やすく、写真・イラスト・文字数のバランスが大変工夫されていること、また、学習内容や各教材の目標などが充実しており、生徒が何を学ぶのか、どのような力が身につけられるのかが大変明確であること、3年間の系統的な学習が明瞭で、学年の発達段階に応じた適切な配列がされているとともに、生徒が学びやすい作品が大変充実していることなどがその理由です。

本市中学生の音楽の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、音楽（一般）については、教育芸術社を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長の説明につきましてご質問があれば、お願いいたします。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、音楽（一般）の教科書についてですが、教育指導課長からの提案がありました教育芸術社のほかに、委員の皆さんの中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、音楽（一般）の教科書について質問をお伺いいたします。
候補本である教育芸術社について、何かご質問はありますでしょうか。

(澤田委員)

採択資料の12ページの（イ）に、「ユニバーサルデザインに配慮したイラストと写真が充実している」と記載されていますが、ユニバーサルデザインに配慮したイラストや写真とは、具体的にどのようなものを指しているのか教えてください。

(音楽担当指導主事)

音楽（一般）の2・3年上の教科書の59ページにある写真や、1年の教科書53ページにある写真をご覧ください。そちらの写真と、器楽の教科書59ページで使われている写真が同じであるため、生徒が学んだことを思い出せるように工夫されていると調査部会でも話が出ました。

(新倉教育長)

ユニバーサルデザインに関する部分というのは。

(音楽担当指導主事)

同じ写真が使われているということで、子どもたちが、ああ、前にやったなという、思い出せること、また、イラストについては、1年生の15ページ、声の出

る仕組みについてご覧ください。声帯が振動する原理とイメージしやすいイラストが使われております。また、3年下、11ページ、歌唱曲「花」のところでも、絵が大きいため、イメージを持って歌えるように工夫されていると調査部会で話が出ました。

(澤田委員)

「ユニバーサルデザイン」をどのように捉えているのでしょうか。今のお話だと、分かりづらいと思いました。何をもって「ユニバーサルデザイン」と言っているのでしょうか。ここに特化して記載してありますので、そのご説明をいただきたいと思えます。

(音楽担当指導主事)

ありがとうございます。

花が大きく書かれているということで、イメージを持ちやすい、また、見やすいということが調査部会で話題に上がりました。また、ユニバーサルデザインにもう一点話題に上がったところが、3年下、32ページのところ、地図が載っているんですけども、色覚特性の子への配慮した地図が載っております。

(澤田委員)

色覚に特性のある人への配慮をお話されましたが、今、どこの教科書も色覚に特性のある人への配慮として、カラーユニバーサルデザインの校閲はなされていると思えます。それができていないということがあったら、教科書として問題であると思えます。

(新倉教育長)

すみません、今のご指摘というのは多分、2者を比較した中で、片方のほうが写真やイラスト、それがユニバーサルデザインに適しているよということが選考の理由になっているということになっちゃっているんで、もう一者のほうが使われていないのかという論議になってしまうかなと思うので。澤田委員がおっしゃっているのは、基本的にUDフォントを使ったり、あるいはユニバーサルデザインのイラストというか、そういったものが通常当たり前に使われているんだけど、それ以上に多機能で使われているかという点があるんだったら、教えていただきたいということだと思えますが、その意味では、ここで言っていることの比較はないというふうに判断をしていいのかなというふうに思うんですが、その辺はどうなんでしょう。

(音楽担当指導主事)

もう一者のほうも、見比べたところ、使われているんですけども、やっぱり見やすい色だったりとか、地図のところでは白で線が区切られていたりとか、文字が大きく書かれているため、より教育芸術社のほうが見やすいということで、ここに書かせていただきました。

(新倉教育長)

趣旨は分かりました。もし、今後の判断でいうのであれば、もう少しユニバーサルデザインの定義をしっかりとちゃんと判断をした上で、こういう批評なり判断をしてもらいたいなというふうに思っています。今おっしゃったように、ただ紙が白いからとかということでは違うというふうに我々認識しているので、これはぜひ、どなたにということのか分からないけれども、部会長のほうにもぜひお伝えをして、部会の方にもう一回判断をする際に検討していただくようにお伝えしておいていただければと思います。

(荒川委員)

会議録19ページに、事務部員からの推薦理由の3つ目に、音楽文化を理解しやすいように、多様な音楽を学習するための工夫がなされているとの記述がありました。多様な音楽について、今日的なものや特徴的なものがありましたら、紹介していただければと思います。よろしくお願ひします。

(音楽担当指導主事)

各学年の巻頭の特集が、歌手、ピアニスト、歌舞伎役者など、他者の考えに触れたり、音楽について様々な角度から考えたりするきっかけとなっております。また、音楽(一般)の2・3年下の66ページ、67ページをご覧ください。そちらでは、音楽教育が生活や社会とどのように関わっているのか紹介されており、医療や介護の分野でも心身のケアのための音楽の力が活用されております。また、SDGsの視点では、楽器本体の素材を環境負荷の少ないものに変えるなど、生徒にとって身近に感じられる内容が書かれております。

(新倉教育長)

ここで言っている音楽文化というのは、音楽の種類を言っているのでしょうか。例えば、通常に文化というと民俗的な文化というか、そういう音楽のところの部分をつかえたりするんですけども、そういった民族音楽的な文化様式が違うということではなく、音源というか、どういうふうに音楽文化というふうに今、定義しているのかなというのが分からなかったんですけども。何か具体的に

りますか。

(音楽担当指導主事)

すみません、今日的なものということで、例えばなんですけれども、音楽2・3上、リモート演奏など、コロナ禍から変わったところなどが挙げられておりますので、そこも一応文化となってくるのかなと思って、調査部会のほうでは話題に挙がりました。

(元木委員)

1点質問です。

同じ学年であっても、思春期の発達段階の違いによって、音楽に対する感性は大きく違ってくると思います。例えば、1人1台端末を活用して個別最適な学びを展開することは可能でしょうか。

(音楽担当指導主事)

可能です。現在も授業の中で取り組んでおります。私が授業を見た中では、例えば、創作で音楽ソフトを使い、音楽を制作する条件、リズム、4分の4拍子、8小節などの条件はみんな一緒にし、それぞれが思いや意図を持って音楽をつくる活動が行われていました。また、鑑賞の授業では、ベートーベンの交響曲第5番ハ短調を一斉にみんなで聞いた後、それぞれが聞きたいところを選んで何度も聞き、気づいた要素をまとめるといった活動も行われていました。

このように、様々な場面で1人1台端末を活用して授業を展開していると、調査部会でも話が挙がりました。

(新倉教育長)

ごめんなさい、そこでの1人1台端末を活用してというのは、それは編曲という意味でなんですか。それとも、様々な音をただ聞くためなんですか。つまり、聞くほうなのか、つくるほうなのかというところでは、どちらがこの教科書を使ったときに学校で重視していこうとしているのかなというのを知りたいんですが。

(音楽担当指導主事)

どちらでも本当に活用がたくさんできると思っております。また、このソフトがあるおかげで、今まで子どもたちが創作ということは難しいなと感じていたと思うんですけれども、本当に押すだけで音が出てきたりとか、それがまた自分では演奏できなくても、再生を押すことによりつくった音楽が流れてくれると

ということで、創作に関してとても便利に使うことができると調査部会で話が挙がりました。

(新倉教育長)

ごめんなさい、私がまだ不勉強なのかな。1人1台端末にそのソフトが入っているということなんですか。

(音楽担当指導主事)

去年、「カトカトーン」というものを横須賀市内で入れまして、全市で小学校、中学校で使えるようになっております。

(新倉教育長)

それは、例えばこういうことでいいのかな、3拍子の曲を4拍子にすることによって、音楽が全く変わってくる。それから、2拍子と4拍子にすることによって、行進曲と違ってくるとかという、全く拍子だとか、それから、転調することだけによって、同じ曲が違う曲に聞こえてくるということを試すということを行っているという理解していいんですか。

(音楽担当指導主事)

拍子などは決まっております、例えば速さを変えるなどは可能ですけれども、ここでは4分の4拍子でつくりますよと、そういう創作のソフトを使っております。また、新しい教育芸術社のほうでも、例えばテンポを変えるけれどもというところが新しく使われておりました。

(新倉教育長)

そういうソフトの話をしていてもしょうがないので、それをこの教科書の中では取り扱えるようにしてあるということを書いて、それが他の教科書よりも進んでいるということが言えるということなんですか。

(音楽担当指導主事)

もう一者のほうも見てはみたんですけども、ワークシートのほうは入っていたんですけども、こうやってつくるようなソフトが教科書から1人1台端末で、コンテンツからは見ることができませんでしたので、教育芸術社のほうは本当に簡単にそれぞれがつくるように配慮されておりました。

(元木委員)

今の点について確認させてください。今、ご説明の中で「カトカトーン」のツールを使っているという話があったと思うんですが、教科書の提供されているツールもあると思うんですね。例えば、2・3年の上の34ページ、35ページのところに、「レッツクリエイイト」というのがありまして、その中で実際に作曲するというところで、二次元コードで創作ツールというのがあるようなんですけれども、こういったものを使って授業の中でやっていくというものじゃないんですかね。

(音楽担当指導主事)

今使っている現行の教科書では、実はここに二次元コードが載っていないんです。この今採択している教科書には、このようにデジタルコンテンツが載っております。なので、今現在は「カトカトーン」、また、「Flat」というインターネットから無料で使えるアプリを使って創作しております。

(元木委員)

それを今回からは、この教科書で提供されているツールを使っていくというようなことでいいんですかね。

(音楽担当指導主事)

おっしゃるとおりです。

(元木委員)

何か一旦このツールを見せていただけるとありがたいんですけども。

(デジタルコンテンツを再生)

(音楽担当指導主事)

まず、楽器を選ぶことができます。そこにリコーダーとかピアノとか、生徒が自分でどの楽器で演奏したいかを選ぶところが左の下のところにあるので、子どもたちはまずこれを見たときに、左下の三角のところポチッと押して、自分はこの楽器でつくってみたいなというところを選択することができます。その後、条件があるので、ハ長調の音階を使って4分の4拍子でまとまりのある8小節をつくるということで、3つの異なる速度から選びます。速い、遅い、中くらいということから選んで、そのイメージに合ったリズムを子どもたちが選んで、イメージに合うように創作をしていきます。

また、つくったものを、再生ボタンを押すと再生してくれます。

また、保存して聞くこともできるので、次の時間に途中からとか、お友達に聞かせてあげようとか、そういうこともできるので、大変活用しやすいです。

(新倉教育長)

そうすると、ただいまのご説明でいうと、今使っている教科書よりもバージョンアップした形になっているから、より使いやすくなっているんだということが、ある意味選択の基準になっているというふうに理解をしておいてよろしいんでしょうかね。

(音楽担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおりです。

(新倉教育長)

それでは、質問を打ち切らせていただいて、討論に入ります。

特にご意見等ございますか。よろしいでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

それでは、音楽（一般）の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校音楽（一般）につきましては、『教育芸術社』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『教育芸術社』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

続いて、音楽（器楽合奏）について採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校音楽(器楽合奏)は、発行者2者のうち教育芸術社を答申いたします。

教育芸術社は、内容や構成、配色、表記が適切で大変見やすいこと、また、各楽器の紹介、説明がとても充実しており、生徒が幅広いジャンル、楽器に興味を持ち、主体的・協働的に学習に取り組めるような点が大変工夫されていること、教材が系統的、発展的に配列されており、生徒が無理なく学習を積み重ねていけるように大変配慮されている点が主な理由です。

本市中学生の音楽の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、音楽(器楽合奏)については、教育芸術社を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明についてご質問があれば伺います。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、次に音楽(器楽合奏)の教科書についてですが、教育指導課長から提案ありました教育芸術社のほかに、2者ですので、もう一者のほうを採択候補として審議したいというご希望があればお承りますが、よろしゅうございますか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、音楽(器楽合奏)の教科書について質問を伺います。教育芸術社の候補本に関してご質問があれば、お願いをいたします。

(澤田委員)

音楽は興味関心のある生徒も多いことと思います。その中で、議事録の21ページの事務部員の推薦理由の③に、「生徒が主体的に学習できるように、バンドや和と洋の融合などの資料が豊富で」とあります。「バンドや和と洋の融合」とは、どのようなことでしょうか。

(音楽担当指導主事)

器楽の教科書68ページに、有名な曲の楽譜と身近なアーティストのバンドのスコアが記載されております。ふだんこのような楽譜を見る機会がない生徒にも興味を持つような工夫がされております。

また、70ページには、今まで学習してきた箏、尺八、三味線などの和楽器とオーケストラが伝統の枠を超えて様々なジャンルの音楽と共演している写真が紹介されており、興味を持つように工夫されていると調査部でも話が出ました。

以上です。

(荒川委員)

私からは、採択資料13ページの(エ)に、生徒が楽しめるリコーダーや箏、三味線、篠笛などの教材が豊富で、幅広く表現活動に取り組めるようになっており活用しやすいとの記述があるんですけども、リコーダーは個人で持っているとして、各学校の音楽室に箏や三味線、篠笛はあるのでしょうかということをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

(音楽担当指導主事)

和楽器の指導については、学習指導要領111ページに、3年間を通じて1種類以上の和楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうこと、愛着を持つことができるように工夫すること、また、和楽器を用いるに当たっては常に生徒や学校の実態に応じるとともに、歌唱や創作、鑑賞との関連も図りながら、実際に楽器に触れて体験することも明記されております。

以前、中学校の和楽器の数、活用について調べたところ、箏、三味線は各学校で所有していました。篠笛に関しては、やはり共有して使うことが難しいため、所有している中学校は1校のみでした。特に箏は1年生の鑑賞「六段の調べ」と関連させて学習しやすいため、2人で1面を使って学習できるようにそろえている学校が多いです。

(荒川委員)

全部そろえることは難しいとしても、先ほどの紹介にあったこういう新しい

機器でこういった楽器の紹介とか音とかなどについては、今後できるような感じで進むのでしょうかということをお聞きしたいと思います。

(音楽担当指導主事)

今、教育芸術社の教科書には、器楽の教科書にはたくさんのデジタルコンテンツが載っております。見たところ、例えば箏、三味線、篠笛など様々な音を聞くことが可能となっております。また、器楽の中の創作でも、創作ツールを読み込むと箏で創作ができるようになっております。なので、学校になくても、子どもたちは耳で聴いたりとか、創作でつくったものを自分でその場で本物を演奏することができなくても、つくったもので聴いて味わうことができるように工夫されております。

(新倉教育長)

ごめんなさい、そこがよく分からなくなっちゃったのは、デジタルコンテンツでできるからという形は音楽の一般のほうでできる話になっている。わざわざここで1つの教科書として、音楽の中の器楽合奏と言っていることは、自らがその楽器に触れて行うというための科目じゃないんですか。もしそうでなく、今のご説明でいくんだったら、器楽合奏は要らなくなってしまうんじゃないかなと思っちゃっている。ここでやらなきゃいけないというのは、本来、そういったものに触れて、自分が演奏するということが主眼でつくられているところじゃないんですか。何か一般と混同してきちゃったら、分ける必要がなくなるように思うんだけど、その辺はどうなんですか。

(音楽担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおりです。やっぱり器楽では、自分で演奏すること、1つの楽器は必ず演奏することとなっております。ただ、学校にない、1つは必ずあるように、自分で触るようになっていきますけれども、子どもたちが興味を持った楽器、実際にどんな音だろうといったときに聴くことは可能となっております。なので、聴いて終わりということにはならないです。

(新倉教育長)

私が言いたかったのは、こういうことなんです。ギターにしたって、その音を音源でつくるといって、どんな音が出るかということに関しては一般のほうで曲をつくったりできるんだろう。ただ、もしこの器楽合奏ということになったら、ギターの弦のどこを置き、どういうふうにしたら音が出るかというその映像を見て習うんだったら、器楽合奏だと思っているんです。音を聴いて、この楽器か

らどんな音が出るかということは、この器楽合奏じゃないんじゃないかなというふうに理解していて、具体の弾き方として、弦のどこをやったらGのコードが出るんだとかというところを映像的に見るんだったら、こちらかなというふうに思っているので、そこを区別しないと意味がないのかなと思ったんですけども、私だけおかしいのかな、これ。

(元木委員)

先ほど一般のほうで、個別最適な学びというところで1人1台端末を活用してという話があったと思うんですけども、恐らくこちらについても器楽について、1人1台端末を使っているいろんな形で聞けたりすることができると思うんですね。もう一者のほうと比較して、聴きやすかった、楽器がなかった場合でもうまく生徒さんに音を聴かせられるといった観点で言うと、今回の教育芸術社のほうに優れている点があるかどうか、教えてください。

(音楽担当指導主事)

先ほど一般の方でもお話ししましたが、こちらの器楽のほうでも個別最適な学びが可能となっております。現在でも授業の中で取り組んでいます。器楽の教科書の19ページのほうを流していただけたらと思います。

(デジタルコンテンツを再生)

(音楽担当指導主事)

こちらは伴奏が入っております。伴奏も、速さを変えることができます。リコーダーの練習の際には、一人一人の技能の差を考慮して、端末に、今までは教師の演奏する指使いや速度の違う伴奏を送って、自分に合った練習方法を探したりして学習を調整しながら粘り強く学習に取り組めるような授業をしておりました。今回の教科書では、様々な曲でこのような伴奏が載っており、また、速度を変えて自分に合った速さで練習できるため、こちらの教科書のほうが活用しやすいと調査部会では話に挙がりました。

もう一者、教育出版のほうでも演奏のほうはあるんですけども、伴奏が入っておらず、範奏という形で人が吹いているところが載っております。なので、子どもたちにとっては伴奏が入っていたほうが合わせて演奏しやすいと調査部会では話題になりました。

(新倉教育長)

こだわりなんだけれども、奏法で、演奏するための指使いだとかいうことを

覚えるのがこっちじゃないんですか。ある程度吹けるけれども、その速さがうまいとか下手とか、ついていけるかという、音痴と言っちゃいけないんだけど、その合わせるためだというのは違うんじゃないのかなと。

和とか洋だとかの楽器に親しむことというのが、それが奏でられるようにどういう指使いをするだとか、どういうテクニックと言っちゃいけないけれども、それを覚えるのがここじゃないんですか。だから、この器楽には、今そこにある機械ではなくて、どういうふうにはじくだとか、どこを押すんだということから始まっているんじゃないかと思っていて、今おっしゃったのは、ずっとこの速さや何かだったというのは、それは演奏法の話なんだよね。

演奏法ではなく、今、元木委員さんがおっしゃったのは、一人一人がもしそれになじもうとしたときに、端末では無理なんじゃないんですか。あるいは、端末が映像でどこを押すんだよということが出てくるんだったら分かるんだけど、これでは、初めての人は全く笛も吹けなければ、三味線もはじけないよね。そこがちょっと分からないんですよ。

(音楽担当指導主事)

教育長のおっしゃるとおりです。もちろん、例えば37ページや47ページには箏や三味線の基本的な奏法ということで、ここから動画が見られるようになっております。

37ページを流していただいてよろしいでしょうか。

(デジタルコンテンツを再生)

(新倉教育長)

趣旨は、言っているのは、演奏しているその姿を見るのではなく、実物やらなきや駄目なんだろうということはずっとこだわっているわけ。それが弾けるようになったときに、じゃ、どのレベルかといったときの速さが、先ほどあっている1人1台端末であろうが、何しようが、その音を聴きながら、自分が速さを合わせることになるんであって、その始めの操作を映像を見てたからって、できないですよ、現物ないとということにこだわっているから、だから、それが音楽の器楽なんだろうと言っている。それを、音を使って何かをしようとするんだったら、一般のほうと先ほどの作曲だとか、音源をつくるということになってしまうので、この器楽の部分ではそれが優位だということはないんじゃないんですかということにこだわっている。だったら、一緒の教科書でいいんじゃないかという話。

この器楽の教科書の優秀さというのは、演奏ができるとかできないとか、演奏

を聞けるということではなくて、演奏できるようにはどうかというところがこの教科書の価値なんじゃないかと言っているんですよ。これ以上言っているもしようがないので、ここまでにさせていただきます。

(新倉教育長)

ほかに質問ないようですので、討論に入らせていただきますが、何かご意見ございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、音楽(器楽合奏)の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思いますが、中学校の音楽(器楽合奏)については『教育芸術社』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『教育芸術社』を採択候補として決定をいたします。

(新倉教育長)

次に、美術について採択候補の決定を行います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校美術は、発行者3者のうち光村図書出版を答申いたします。

光村図書出版は、主題を生み出すことの大切さが伝わるような構成になっており、複数ページにわたって多様な表現の参考作品が紹介されているため、生徒の実態や思いに合わせて読むことができ、大変活用しやすい点がその理由です。

本市中学生の美術の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、美術については、光村図書出版を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明につきまして、質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、美術の教科書について、教育指導課長からの提案にありました光村図書出版のほかに委員の皆さんで採択候補としてご推薦し、審議したい教科書はありますか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、美術の教科書について、光村図書出版を候補本としてご質問を受け付けたいと思います。質問のある方はどうぞ。

(澤田委員)

光村図書の美術の教科書を見て、感想と1点質問をさせていただきます。

光村図書の美術の教科書は、教科書本体、そして、技法などの資料を載せた別冊、さらに二次元コンテンツ、それぞれに役割を持たせたつくりになっています。美術というその特性もあって、画像が見やすく、美しいと感じました。特に、今回の教科書では1人1台端末の活用を意識しており、二次元コードを活用することにより、「体感ミュージアム」にアクセスでき、それは高画質であり、端末に書き込みが可能、また、360度鑑賞できるなど、新たな工夫がなされていて、興味・関心が高まるつくりとなっているところは評価できると思いました。

1点、質問です。採択資料の14ページの特に優れていると判断した理由、総合評価で、「主題を生み出すことの大切さが伝わるような構成」について教えていただきたいと思います。これは、部会議事録の23ページにもありますように、部会内でも質疑が行われたようですが、「リンゴの写真」から、発想の仕方、見方

は様々であって、そこから生徒個々が「主題を生み出すこと」にどのようにつながるのか、文面から分かりづらかったので、再度説明していただければと思います。

(美術担当指導主事)

主題を生み出すことについては、美術の表現活動における核ともいえる事項です。主題を生み出すとは、生徒自身が何かを表現したい、何を表現したいのかなどを強く表したいと心の中で思い描くことで、言わば一人一人の作品のテーマと言えるものです。

光村図書の1年生の教科書14ページは、図工の学びから美術の学びへの入り口とも言えるページです。ここではリンゴを例にしていますが、リンゴイコール赤ということではなくて、リンゴをじっくり見たり触ったりしていると感じ取れるものとか、リンゴとの思い出とか、リンゴがもし何々だったらなどと対象と深く関わるのが美術の表現の中心になりますというメッセージがこのページに込められています。

1ページめくると、その具体的な授業内容が掲載されていますが、身の回りにある物を描きましょうということではなくて、身の回りにある物を見つめて、感じて、楽しみながらスケッチしましょうというリード文があります。そのため、17ページの上に掲載されている生徒作品は、ただの靴ではなくて、祖父母や両親との笑顔の思い出が詰まった靴であり、そのことを温かみのある色合いで表現しましたと紹介されています。そのようなつながっているということです。

(新倉教育長)

その意味で1点だけ私のほうから、余計な質問なのか分からないけれども、横須賀市でやっている児童生徒造形作品展は、各学年に同じテーマにしちゃっている区分があるかなど。例えば、靴なら靴のスケッチ、スニーカーを写そうとかという学年テーマみたいに皆さんつくっている。それと同じような形で、じゃ、ここでせっかくこういうものを行っているんだけれども、それをやろうというテーマというのは今、学校教育の中で何か展覧会とか発表の場所があるのでしょいか。

(美術担当指導主事)

児童生徒造形作品展で展示される前に、美術室の前に展示されていたり学校によっては学年の廊下に展示されているということはありません。

(新倉教育長)

せっかくこの教科書の採択の中で、こういったことを子どもたちに植え付けていきたいんだとしていながら、そこで出てきた授業の成果というものが、いわゆる造形作品展や何かのところに昇華していかないのかなという不満があるので、これをわざわざ教科書の特性として捉え上げていくんであったら、それを授業成果としてちゃんと出せるようにしていかないと、せっかくの教科書で子どもたちに主題の見つめ方を与えておきながら、意味がない。だったら、この教科書を採択する理由があるのというところについてしまうんじゃないかと思ったので、そこに対する見解をどういうふうに思っているかを聞いておきたいということです。

(美術担当指導主事)

今、児童生徒造形作品展は作品を展示するというのではなくて、その表現が生み出された過程、学びの姿を展示しましょうということで指導しているところです。まだ学校によって差はありますが、作品の周りに題材名とか、このようなねらいで指導しました、授業を行いましたということも一緒に展示するように今指導しているところで、少しずつそれが増えてきていて、参観している方からも、そういうことがあって分かりやすいですというような声は聞こえてきているところなので、引き続き指導していきたいと思います。

(新倉教育長)

話が違う方向へいっちゃったのかもしれませんが。要するに、ほかの教科書よりもこの表現だとかということが優れているよということが採択の根本にあるわけですね。他の教科書にはあまりこれを大きく扱ってくれていないんだというところでいいんですか、まず。

(美術担当指導主事)

ほかの教科書でも、もちろん主題を生み出すことということは大切なことなので、取り扱われていますが、3者を比較したときに、光村図書が最も伝わりやすいということで、調査部会の中では特に評価されています。

(元木委員)

今の教育長からの質問に関連してなんですけど、現行は日本文教出版を使われているかと思います。その現行の教科書よりも光村のほうが優れている点について、詳しく教えていただけますでしょうか。

(美術担当指導主事)

これは一例なのですが、調査部会では、例えば風神雷神についての取り扱いの違いに着目しました。まず、光村図書では1年生の36から40ページ、ここにダイナミックな構成で掲載されて、さらに42ページ、43ページでは、三十三間堂に実際に配置されている様子や、2人の絵師によって描かれた風神雷神図屏風が掲載されています。次に、日本文教出版の同じく1年生を見てみますと、24ページ、25ページを使って、風神雷神図屏風を鑑賞できるようになっています。日本文教出版では、実際に屏風のように立てて鑑賞できるような仕掛けもあるのですが、授業での取り扱いをイメージしたときに、取り扱いにくさもあるのではないかと調査部会では話題になっていました。

このほかにも、幾つか共通する題材で同様に比較をしたのですが、今回の教科書についてはその多くで光村図書のほうが優れていると評価されています。

(荒川委員)

私からは、採択資料14ページ(ウ)に、身の回りにあるものと環境とのつながりや、地域の特色を生かした装飾、伝統工芸とのつながりなど、社会の中の美術や美術文化との幅広い関わりについて、体系的に紹介しているとの記述があります。特に身の回りにあるものと環境とのつながりについてと、地域の特色を生かした装飾と伝統工芸について、どのようなものがあるのか、幾つか紹介していただけたらと思います。よろしく申し上げます。

(美術担当指導主事)

まず、ご覧いただきたいのは、光村図書の2・3年の68、69ページです。

ここには、身の回りにあるデザインや工芸が私たちの生活や社会を便利にするだけではなく、豊かにすることがこのページからも感じ取ったり、考えたりすることができます。

ここからページをめくりますと、その授業の具体が示されています。少し飛ぶのですが、例えば80ページのところには電車の中の内装と環境とのつながりが示されていて、88ページにはお土産のパッケージが示されていて、地域の特色を生かした装飾が紹介されているなど、社会の中の美術や美術文化についての学習を具体的に行えるような構成になっています。

(荒川委員)

ありがとうございました。

(新倉教育長)

質問がないようですので、次に討論に入らせていただきます。
何か意見ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、美術の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校美術につきましては、『光村図書出版』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『光村図書出版』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

次に、保健体育についての採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校保健体育は、発行者4者のうち東京書籍を答申いたします。

東京書籍は、習得した知識・技能を活用して、さらに思考を深められるよう構成されており、生徒にとっても、経験年数の少ない教員にとっても、大変活用しやすくなっています。また、巻末のスキルブックと併せてデジタルコンテンツも充実しており、生涯にわたって健康を保持増進する態度を養うことができるように構成が工夫されています。

本市中学生の保健体育の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、保健体育については、東京書籍を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明についてご質問があれば、お願いします。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、保健体育の教科書について教育指導課長の提案のありました東京書籍のほかに、委員の皆様の中で採択候補として推薦、審議したい教科書がありますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、保健体育の教科書について、東京書籍についての質問を受け付けたいと思います。ご質問がある方はどうぞ。

(元木委員)

調査部会、事務部会ともに、東京書籍と大修館書店が推薦されておりますが、中学校専門部会議事録によりますと、資質能力を育成するという観点で東京書籍のほうが優れている点で、大修館書店が除外されていると。この大修館書店には、東京書籍よりも優れている点はないのかという点と、総合的に大修館書店のほうが優れている、評価が高いということはないかというところを教えてくださいたいと思っております。

特に大修館書店では、現代の課題に対応した特集資料や身近に感じやすい題材が取り上げられているなど、学習指導要領に示された内容に付随して、今日的な話題も取り上げやすいと思いますが、いかがでしょうか。

(保健体育担当指導主事)

資質能力の育成という点では、東京書籍、大修館書店ともに大変優れているという評価となりました。

ご指摘にあった大修館書店のほうの方が優れているという点についてですが、大修館書店は現代の課題に対応した特集資料や、身近に感じやすい題材が取り上げられているということは調査部会でも話題に挙がりました。

13ページをお開きください。大修館書店の教科書になります。

例えば、ここではスポーツの新しい楽しみ方が特集資料として示されています。ここにはゆるスポーツ、超人スポーツということで、いわゆるeスポーツであったり、AIスポーツなど、新たなスポーツの楽しみ方について、子どもの興味関心を引くような構成がされています。

続いて、28ページ、29ページをご覧ください。

章の最後に、これまでの内容を振り返られるまとめのページが必ず構成されており、しかも、資質能力に分かれて記載がされております。ここは非常に生徒にとっても、教師にとっても活用しやすいという話題になりました。

逆に、東京書籍のほうの方がより優れていると話題に挙がったのは、主には次の2点になります。

1点目は、毎時の学習の中で自分事や実生活と照らし合わせて思考できる課題が多いことです。大修館書店は逆に、毎時の中で思考させる課題が少ないという話題になりました。2点目はデジタルコンテンツで、ワークシートなどが多い大修館書店に対し、東京書籍のほうは動画、思考ツール、シミュレーションなど資料が大変充実している点。以上が話題に挙がりました。

(元木委員)

あともう一点、今日的な話題という点でいうと、このあたりについても東京書籍よりも大修館のほうが良いというか、大修館じゃなくて東京書籍のほうにはそういったコンテンツなどは特にないんですかね。

(保健体育担当指導主事)

東京書籍、大修館書店ともに、今日的な話題については多数取り扱われております。特に大修館書店で光ったというところといたしましては、少々お待ちください、42ページをご覧ください。性の多様性のところになります。大修館書店も東京書籍もどちらもここについては非常に取り扱われているんですが、特にこの部分では上段で、男性らしく、女性らしくって何だろうということで、いわゆるジェンダーバイアスについての投げかけがあり、さらには右側の男女の区別がなくなり、呼び方が変わった職業、これらについては特に生徒の興味関心を引く教材になっているというふうな話題になりました。

このように、どこかに特化すると大修館書店のほうが目を引きやすいという一面もある一方で、総合的に東京書籍のほうも優れているという話が調査部会

ではありました。

(元木委員)

すみません、東京書籍のほうが今回は優れているということでこっちを採用するといった提案になっていると思うので、この東京書籍のほうで、そういったところのコンテンツについて、もうちょっと教えていただけるとありがたいです。

(保健体育担当指導主事)

逆に東京書籍のほうが優れているというところで、次は東京書籍教科書お願いいたします。ページ順に紹介をいたします。51ページをご覧ください。

ここは先ほどと重なります、性の多様性のところになります。また、現行の教科書も東京書籍になりますので、現行のものに比べても、記載内容も充実し、こちらはSOGIとして性の多様性が示されております。ここに二次元コードも追加されており、中学生目線で話し合っている動画も搭載されており、非常に活用しやすいという話が出ました。

続いて、106ページ、こちらはがんについてです。指導要領上、必ず取り扱うものとして記載、失礼いたしました、94、95ページですね。94、95ページが、まず基本的に扱うがんの予防のところに触れられておりました、発展的な内容として106ページにがんについてもっと知ろうというところであります。主な治療法であったり、感染によるがん、また、正しい情報収集についても、また章末資料でこれら触れられております。

続いて、108ページ、虫歯や歯周病、いわゆるオーラルフレイルに関わる内容になります。具体的なグラフや根拠資料、近年の傾向を基に、身近に感じ取れる工夫がされております。

さらには140ページ、SDGsに関するものです。他市町の取り組みにはなりますけれども、二次元コードにおける、ここはワークシートが搭載されているんですが、社会、国や地域、企業でできること、自分にできることの2つから考えさせ、身近なことから取り組み、社会全体の大枠でも捉えることができるよなど、こういった今日的话题、東京書籍のほうでも取り扱われているというふうに話題が挙がっておりました。

(荒川委員)

では、私のほうから2つ質問させていただきます。

まず、採択資料15ページ(ア)に、知識の定着のみにとらわれず、知ったことをどのように活用するかまで考えられた構成になっている点が特に優れている

との記述があります。その活用について、具体的な事例を紹介していただければと思います。

2つ目なんですけれども、2つ目はちょっと今日的な課題について、元木委員の質問とも重なる部分がありますので、さっき紹介していただいたこと以外にも、もし何かこういう健康を保持増進する態度を養うことができるような工夫とか、そういったところでもしあれば、教えていただければと思います。よろしくをお願いします。

(保健体育担当指導主事)

まず、1点目の質問についてです。20ページ、21ページをご覧ください。

まず、教科書の構成としまして、左上に必ず当日の内容の学習課題が設定されており、それを受け、様々な資料を基に知識技能を習得していく。さらには、発展的な投げかけ、ここで言いますと21ページ右上になりますが、あなたは睡眠で十分な休養を取れていますかというふうな投げかけがあります。こういった発展的な投げかけも豊富で、習得した知識や技能を活用し、思考・判断、さらには表現できる工夫がされており、そして、最後にはまとめとして、活用するが設定されており、実生活と結びつけて考えられる構成になっており、1時間内のストーリー性ある展開、構成が非常に優れているという話になりました。

さらには、章自体の最後に、章末資料、この睡眠で言いますと25ページになります。これらも資料が非常に豊富に掲載されており、数時間を通してこれまで学んできた内容を想起させたり、基礎的内容をさらに発展的に学習したりすることが可能な構成という点もすばらしいという報告を受けております。

2点目のご質問ですが、先ほどは性の多様性、がん、虫歯や歯周病といったオーラルフレイル、SDGsを例に挙げましたが、そのほかに、例えば横須賀市の実態と合わせながら言いますと、横須賀は音楽・スポーツ・エンターテインメント都市というところで、多様なスポーツの関わり方というところで、アーバンスポーツ等を、教科書には直接アーバンスポーツという記載はないんですけれども、横須賀市と照らし合わせて、多様なスポーツの楽しみ方、関わり方は何だろうというような内容はありますので、身近なまちと、自分が住んでいるまちと照らし合わせながら考えられる、今日的な話題も豊富にあるというふうな話題になりました。

(澤田委員)

採択資料にあるように、動画やシミュレーションの活用や、話し合ったりする内容等の工夫がなされているとのこと、授業での個別最適な学びや協働的学びの可能性があり、評価できると思います。

1点イメージが持ちにくいのですが、(カ)に「二次元コードが充実されていて、特に思考ツールやシミュレーションは1回のアクセスで各章の資料を閲覧することができ、現代的で大変分かりやすい」というのは、どのようなシステムになっているのか教えていただければと思います。

(保健体育担当指導主事)

31ページの二次元コードを読み込んでいただいでよろしいでしょうか。

先に話を進めさせていただきます。大半の教科書会社におけるデジタルコンテンツは、二次元コード1つに対し1つのデジタルコンテンツの閲覧しかできません。他の内容を閲覧したい場合は、当該の二次元コードを再度読み込む必要がございます。

(デジタルコンテンツを再生)

(保健体育担当指導主事)

今映していただきましたが、東京書籍の二次元コードによるデジタルコンテンツはこのように、いわゆるDVDで言うところのチャプター一覧といいますか、こういう目次に飛ぶ形で、また違うところのページにこういうふうに戻ったりとか、一度どこかから入り込みさえすれば、ここの中でやり取りができる。1回閉じて、また読み込むというような作業がなくなるというようなところで、非常に活用しやすい。さらには、動画もありますし、思考ツール、シミュレーションといった資料も豊富になっている、そういった話題に挙がっておりました。

(新倉教育長)

では、私から1点だけ。先ほど荒川委員から、あるいは元木委員からのほうもありましたけれども、今日的な課題の対応として、性の多様性、あるいはがん、オーラルフレイル、SDGsという形であったけれども、命の学習という部分かな、大変難しい性の課題が残っているかと思うんですけれども、これらについて、今回選択をする中ではどのような判断がされて、今回の書籍ではどう扱っているのかについて、もし分かるんだしたら教えてほしい。

(保健体育担当指導主事)

命の大切さ、保健体育の中でも大きなテーマでございます。保健体育の教科でいいますと、保健分野とともに体育分野、いわゆる運動領域がございますので、その中でも特に命の安全については指導していく内容になります。保健分野に特化した形でいいますと、今、南海トラフ等の地震等の心配もあつたり、そうい

った健康と環境といった内容であったり、傷害の防止というところで、心肺蘇生も含めながら丁寧に扱っていく必要がある項目だというふうに捉えております。

ただ、その命の安全に特化して調査部会で何かを調査研究したというところは、事実としてはございません。

(新倉教育長)

命の学習のほうと言ったかな、命の教育というか、性教育に関しての部分でどのように扱っているかということを確認したかった。

(保健体育担当指導主事)

命の学習ということで、性教育、性に関する教育も含めてというところなんです。が、いわゆる学習指導要領上では妊娠の経過は取り扱わないというふうないわゆるはどめ規定があります。それについては当然、守られながらというところで、現行の教科書同様に、今回採択している教科書も同様なつくりとなっております。

しかし、性の多様性というところで、特に横須賀市はパートナーシップ宣言の都市でもありますし、いろんな性の在り方を認めようというところでいいますと、現行の教科書よりも、同じ東京書籍になりますけれども、資料の豊富さがもう数倍にもなっておりますので、そういったところも含め、命の学習というところでやっていく必要があるというふうに、そういった話は出ました。

(新倉教育長)

それは、他の4者ありますけれども、全て同じレベルだったということの確認が取れているということなんですか。

(保健体育担当指導主事)

まず、性の多様性については、他の2者、東京書籍、大修館書店以外の2者、こちらについてはほとんど記載がない状況でした。性の多様性のところに特化しますと、冒頭紹介をさせていただきましたが、大修館書店が見開き2ページで非常に細かく、また、生徒の興味関心を引きやすい資料というところで掲載をされていきました。

(新倉教育長)

先ほど、37ページの二次元コードを読み込んだじゃないですか。そこをちょっと見せてもらえます。そのさっき開いていたところで、性に関しての部分が何か出てきたはずですよ。生殖機能だったのかな。

(デジタルコンテンツを再生)

(新倉教育長)

こういう形のものというのは、ほかの教科書からはアクセスが、二次元コードはつくられていないの。というか、そこが確認できているかと聞きたいだけなんです。

(保健体育担当指導主事)

大修館書店はデジタルコンテンツがございます。しかし、動画にはなっておりません。他の2者、大日本図書、学研については一切記載もまずない、二次元コードもないという状況になります。

(新倉教育長)

その意味では、命の教育と言っているから、性教育の部分については、もう一回インデックスのほう戻してくれる、今のところ。今のところのインデックスか。生殖機能とすると受精と妊娠だとか、人の命の始まりというもの自身は、ここでちゃんと一応扱っているんだということが言えるということになるのかな。これは、この東京書籍のみが持っているということでもいいんでしょうか。

(保健体育担当指導主事)

動画も含めたデジタルコンテンツという示し方で言いますと、東京書籍のみという扱いになります。

(新倉教育長)

質問ないようですので、討論に入ります。ご意見等ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、保健体育の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校の保健体育につきましては、『東京書籍』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

次に、中学校技術・家庭（技術分野）に入らせていただきます。採択候補の決定を行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校技術・家庭（技術分野）は、発行者3者のうち、東京書籍を答申いたします。

東京書籍は、問題発見や課題設定の活動でより深く考えられるよう様々な思考ツールが例として紹介されていたり、問題解決の流れが理解しやすいよう、複数の実践例が紹介されていたりするなど、技術による問題解決の活動が生徒、教師どちらにとっても大変分かりやすいものになっています。

本市中学生の技術・家庭（技術分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、技術・家庭（技術分野）については、東京書籍を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明がありましたが、質問はございますでしょうか。

この部分になるのかと思いますが、ちょっとご質問の趣旨を確認させていただきたいです。調査部会から東京書籍と開隆堂出版が、事務部会からは東京書籍が推薦されていたんですが、第2回の会議録で「W a n t s」が加えられたというふうに記録が残っているみたいで、元木委員からご質問があったかと思いません。この部分、内容の説明というのではなく、ちょうどこの選考過程における質

問なので、どうしてこのような経緯になったかということのご質問が寄せられていたかと思うので、ここでもしよろしければ、もう一回趣旨があれば、元木委員からご質問いただければと思います。

(元木委員)

今、教育長からご説明があったとおり、議事録によりますと、この開隆堂のほうに「環境」「安全」「経済」のほかに「W a n t s」が加えられているというような形になっておりまして、幅広い視点から考えられるほうがこの開隆堂のほうになっているというところなんです。今回、実際に提案されているものが東京書籍のみということで、こういう形で変更された理由、経緯について説明いただければと思います。よろしく願いいたします。

(技術・家庭担当指導主事)

今のご質問についてですが、議事録の調査部員の回答にもあるように、技術分野は問題解決の学習過程を重視しています。その点において、ご指摘のあった開隆堂の「W a n t s」は幅広い視点から考えられる1つのキーワードとなっているというのは調査部員がお答えしたとおりなんですけれども、それを踏まえた上でも、こちらが、調査部員のほうから出されている調査結果の資料と、事務部会のほうから出されている資料の中に、まず東京書籍の問題解決の活動の分かりやすさや、事務部会からの問題解決についての糸口のつかみやすさといった推薦理由を採択検討委員会のほうで重視していただいた結果であると聞いております。

(元木委員)

今のご説明で、優れている点、幅広い視点というところで開隆堂さんのほうだと「W a n t s」が加えられていると。東京書籍のここに対応する部分というのは具体的にどのあたりか。この部分が既に網羅されている、含まれているところについて、もう少し詳しく説明いただけますでしょうか。

(技術・家庭担当指導主事)

今のご質問ですけれども、東京書籍については「W a n t s」ではなく「社会」という言葉で表現されております。教科書でご説明すると19ページの、少し見開きになるような形の、真ん中に最適化の窓というふうに丸く切り抜かれている部分の、その部分の左上のところなんですけれども、正確に言うと社会からの要求ということが正しい言葉として表示されております。その要求という部分を開隆堂のほうは「W a n t s」という言葉で表現している形になります。

(元木委員)

分かりました。

(新倉教育長)

それでは、技術・家庭（技術分野）教科書について、教育指導課長から提案ありました東京書籍のほかに、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、技術・家庭（技術分野）の教科書についての質問をお伺いします。候補本である東京書籍についてご質問があれば、お願いします。

(澤田委員)

東京書籍と他者の比較で、東京書籍が優れている点として挙げられているのが、問題解決等の過程での生徒たちの思考のしやすさ、深まりだということ、これは大変重要な視点だと考えます。

技術分野では「情報」についても取り扱いますが、選定に当たって話題に挙がりましたでしょうか。急速な発達を遂げている情報の技術に関しては、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし、発展させるという視点から、中学の技術分野で取り組んでいくことになっていると思いますが、東京書籍での取り扱いについて教えてください。

(技術・家庭担当指導主事)

今、技術分野の中の情報の取り扱いについてというお話でいただいたんですけども、調査部会の中では特段、情報の技術という指導内容に関して特別に扱ったということではなく、やはり全体の学習内容を通したときに、問題解決学習に関わる話題としては中心に上がっています。

ただ、情報の技術についてご指摘いただきましたので、情報の技術を基に具体的に東京書籍の記述内容についてご説明させていただきます。まず、情報の技術、200ページから学習の表示が始まります。まず、ほかの指導内容についても同じなんですけれども、身の回りにある技術に着目をさせるような形になっています。なので、情報の技術についても、子どもたちの身の回りにはどんな情報の技

術があるのかというところからスタートしています。そのように、身近なものとしてまず捉えさせた上で問題解決、今ある技術をどうしたらもっとよくなるかという問題解決へと迫っていきけるような流れになっています。

具体的に問題解決の部分でお話をすると、232ページをお開きください。こちらの232ページには、問題解決の例として1つ取り上げられてはいるのですが、特定のものをただプログラミングをして取り組むのではなく、やはり課題解決、問題解決なので、できたらいいなということで、できたらいいなを形にしようという題材の名前で、子どもたちが今ある課題を実現するためにはどうしたらいいだろうという、そういった視点で考えることができるようになっています。

また、自分自身の課題だけではなくて、次のページ、234ページからの問題解決例には、誰かのためにできたらいいなというのを形にするという発展的な内容に移行するような形の例示が示されています。これは、先ほど澤田委員からおっしゃっていただいた小学校でのプログラミング教育において、まず子どもたちがコンピューターが世の中で扱われているよさに気づいている、そういったところを土台にして、さらにそのよさをもっと中学校の専門的な学びから発展していけないかというところで取り組めるような題材の中身だと考えています。そういった点で、この題材、問題解決の例を幾つか示されているというのはすごく扱いやすいのではないかという話題が調査部員の中では多く挙がっております。

(荒川委員)

採択資料16ページの(カ)にデジタルコンテンツがページごとに用意されており、シミュレーターや思考ツールなど授業で有効に活用できる点が工夫されているとのことですが、どのように活用できるのか、具体的に紹介していただければと思います。よろしくをお願いします。

(技術・家庭担当指導主事)

では、具体的にデジタルコンテンツを見ていただきたいと思いますので、177ページの二次元コードを読み取っていただいでよろしいでしょうか。

(デジタルコンテンツを再生)

(技術・家庭担当指導主事)

そのリンク機構シミュレーションを開いていただくと、このような形で、これはこ、クランクというところのリンク機構なんですけれども、本来であれば一人一人目の前にこういった教材があって、それを組んで動かすことも可能なん

ですが、やはり教材を準備する時間や片付けをする時間を考えると、こういったコンテンツで簡単にそれぞれの辺の幅を変えることでどう動きが変化するかというようなことを確認することができます。こういったシミュレーターが多く設けられています。

また、このシミュレーションとはちょっと違うところではあるんですけども、ありがとうございます、ちょっと変えていただいて、その真ん中にある図をドラッグして動かすと、動きが見えるんですね。その上のほうを、赤いほうの辺をちょっと左右に振っていただくと、動かせる。ちょっと操作が難しいんですけども、自動再生していただくと、すぐ出てくるかなと思います。あと、手動再生か自動再生を右下にある、はい、そうですね。そんな形で動くという、動き方が子どもたちの中で見えると。その幅を変えれば、またこの動き方や動く速さだとか、そういったところが変化するという、これはエネルギー変換の技術という中での指導内容の部分になるんですけども、こういった形で、加えた力がどのぐらいの大きさに変わっていくかとか、スピードがどのぐらい変わるかというのをパソコン上で目視しながら確認ができて、自分たちが実際に、じゃ、つくる時にはどういう機構にしたらいかなというのを考えることができるという、そういったツールになっています。

もう一つ、ごめんなさい、ご紹介しようと思っているのは、こういったシミュレーションというよりは、223ページの二次元コードを読み込んでいただいてよろしいでしょうか。

(デジタルコンテンツを再生)

(技術・家庭担当指導主事)

こちらもアクティビティ図を開いていただいて、これだけだと全く何をするか分からないんですけども、これはプログラミングを考えていく上での思考ツールの1つになっていて、どういう順序で命令を出していったら、最終的に意図する動きをさせるかというのに、今までは、フローチャート図という言葉で表すと分かれる方もいらっしゃると思うんですけども、今はフローチャートよりも幅広い動きを思考できるようにアクティビティ図というような形を捉えるような形になっています。それを紙面でやるのがすごく面倒というか、1回間違えたらもう一度書き直さなければいけなかったりだとかするので、それをこのコンテンツを1つずつ引っ張り出してつなげていくことで、すぐにつながりやすいですし、または、それを修正し直すことができるというよさもありまして、こういったシミュレーションツールというような形で幾つかコンテンツが準備されています。

(元木委員)

今ご説明いただいたものなんですけれども、フローチャートは恐らく先生方も扱えると思うんですけれども、アクティビティ図、扱えるのかなというふうにちょっと危惧するところがあるんですけれども。実際はUMLという別の規格、Unified Modeling Languageというものから出てきているものだと思うんですけれども、実際に現場の中でこのアクティビティ図を使えるようになっているかどうか、先生方の指導の状況について教えていただければと思うんですけれども、いかがでしょうか。

(技術・家庭担当指導主事)

実は、まだフローチャートの段階で止まっていらっしゃる先生が大半で、なかなかアクティビティ図まで指導が行き届いている状況は実際にはございません。大変悲しいことですので、今後、アクティビティ図についての先生方の理解も進めていけるように、この教科書のツールだったりをヒントにしながら指導助言してまいりたいと思います。ありがとうございました。

(新倉教育長)

質問がなければ、討論に入らせていただきますが、何かご意見ございますか。

私から1点だけ、どうもほかのものとも、二次元コードを全部読ませていただいている中で、東京書籍は二次元コードといいましょうか、コードの中に別にパッケージを随分ちゃんとつくっているのかなという印象が非常にあって、逆にそれが章立てになっていて、それぞれから落とし込めるところで、我々が当初想像していた二次元コードは単なるこのデータとか、あるいは画像だとかというものだけだったんですけれども、その後ろに何かパッケージ的にちゃんと非常にあるんですけども、これはデータの的に重たくはないのかなと心配が1つあるんですが、この辺は何か、もし分かればということで、お願いします。

(技術・家庭担当指導主事)

実際に、これを一斉に各教室で全員が開いたときの実態を調査していないので、現状ではどの程度負荷があるかというのは判断しにくいところです。今見ていただいたような動きが出るものについて、やはりそれなりの負荷がありますので、その状況を見ながら、活用の仕方についても先生方に、グループで1つでみんな考えてみるだとか、そういった授業形態についてもアドバイスできるようにしていきたいと思います。

(新倉教育長)

ありがとうございました。元木委員からありましたように、私もフローチャートでしか生きていなかったのも、アクティビティ図になると、その経験と、また新しいものをつくっていかなくちゃいけないというその周知まで大変なのかと思うので、この辺と、せつかく教科書の中にある二次元コードを読み込みながら使わせる際に、結果的に固まってしまって動かなくなるというのはあまりにも得策じゃないので、容量を見ながら、教員がその部分に誘導するなりという形は、活用方法を今後ちゃんと考えておいていただきたいなということを意見として述べさせていただきます。

他にご意見はよろしいでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、技術・家庭の技術分野の教科書に関する審議を終了して、採択候補を決定したいと思います。

中学校技術・家庭の技術分野について、『東京書籍』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

続いて、中学校の技術・家庭（家庭分野）ですが、採択候補の決定を行いたいと思います。

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校技術・家庭（家庭分野）は、発行者3者のうち東京書籍を答申いたします。

東京書籍は、実習例が多く取り上げられており、学校の実態や生徒の個性に応じた実践的、体験的な学習活動が行えること、例示されている思考ツールを活用することで生徒一人一人の考えを深めたり、グループでの意見をまとめたりす

ることができること、生活の営みに係る見方・考え方を働かせた学習となるよう、4つの視点の大切さや内容との関わり、日常生活のつながりなど、生活や学習の過程でそれらを働かせて理解を深めることができるよう配慮されている点がその理由です。

本市中学生の技術・家庭（家庭分野）の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

（新倉教育長）

次に、提案説明をお願いします。

（教育指導課長）

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、技術・家庭（家庭分野）については、東京書籍を採択候補として提案いたします。

（新倉教育長）

教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（質問なし）

（新倉教育長）

それでは、技術・家庭（家庭分野）の教科書について、ただいま提案がありました東京書籍のほかに、委員の皆さんの中から採択候補として推薦、審議したいものがございますでしょうか。

（各委員）

推薦なし

（新倉教育長）

ないようですので、技術・家庭（家庭分野）の教科書についての質問に入らせていただきます。

候補本、東京書籍について何か質問ございましたらお願いします。

（荒川委員）

では、採択資料17ページ（オ）に、274ページに課題の決め方が示されており、

生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定するためのきっかけがつかみやすいとの記述があります。次の3点についてはどのような課題設定があるのか紹介していただければと思います。1つ目はSDGsの視点での課題設定、2つ目は今日的な問題、例えば多様な家族やヤングケアラーなどについて、3つ目は消費者として今日的な課題に対する意識を高めるための方法について紹介していただければと思います。よろしくお願いします。

(技術・家庭担当指導主事)

まず、最初に課題設定というところなんですけれども、家庭分野の課題設定では、必ずその前に生活や社会の中から問題を見いだすことというのが大きなポイントになっています。それを踏まえた上で、274ページでは、問題を見いだすためのヒントが大変丁寧に書かれており、その問題の解決に向けた課題設定がしやすいという意見が出されておりました。

それを踏まえた上で、具体的な課題の設定の例ですけれども、実際には子どもたちが見いだした問題から課題を設定しますので、私が今からお話することについてはもう本当に想定という形でお聞きいただければと思うんですが、SDGsの視点では、例えば5編の私たちの消費生活と環境について学んできたことを子どもたちが振り返る中で、自分の身の回りの問題点を食生活に関連させて考えた場合に、ごみの量の多さが問題であると考えたとします。そうした場合に、やはりごみを出さないための食生活として、すぐに食材を買うのではなく、家にある材料でつくれるものを考えて家族に振る舞おうといったような課題設定をすることが考えられます。実際に教科書にも、276ページにサステナブルクッキングにチャレンジというような例も載せられています。

また、今日的な問題の視点です。これは、1編にある未来につながる家庭分野というガイダンスに当たる部分ですけれども、ここで、家族の在り方を振り返った際に家族の大切さに気づいたり、自分以外の家族の過ごし方に注目したときに、住生活と関連づけて、家族全員の住まい方に問題があると考えたとします。そうした場合に、今の家族、また、今後の家族の形が変わっても、全員が快適で安全に過ごせる住空間を考えるとといった課題設定をすることが考えられるのではないかと思います。これは、今日的な課題というような多様な家族とか、ヤングケアラーといったところには直結はしないかもしれないんですけれども、家族に対する理解を深めたり、他者へ寄り添う態度を涵養していくことにつながることで、多様な家族の理解やヤングケアラーといった存在についての理解、または自分自身についても振り返りながら、どう改善していけるかといったところについて個人個人が振り返るきっかけになるのではないかなと考えています。

最後に、消費者として、今日的な課題に対する意識を高めるための方法という

ことで、先ほどSDGsの課題設定の例でもお伝えをしましたがけれども、同じような形の視点で消費者としてどうあるべきかというところで、本当にSDGsの視点がすごく強く関わってくるのではないかなと思うので、こういった問題発見から課題解決といった実践をより積み重ねていくことが、今日的な課題に出会ったときに、避けて通ろうとするのではなくて、どうしたらよりよく生活していけるかといった視点に立ち返れる、そんな子どもたちの育成につながるのではないかなと考えます。

(荒川委員)

今、例に挙げていただいたような問題が各教室で出て、子どもたちが本当に自分のこととして話合いが活発に進められるといいなというふうに思いながらお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

(元木委員)

採択資料における総合評価にもあるとおり、例示されている思考ツールを活用するというような話があります。ここで言う思考ツールとは、具体的にどのようなものを指しているのでしょうか。教えてください。

(技術・家庭担当指導主事)

家庭分野での思考ツールについては、実際に教科書の6、7ページをご覧くださいと思います。

この6、7ページの下の部分に思考ツールの活用ということで、子どもたちが自分の考えを整理したり、または、自分の考えにはないところに発想をひもづけたり、あとは比較分類したり、計画立てたり、順位づけたり、多面的に見たり、構造化するといったことを適切にということか、子どもたちが迷わず行えるようにするためのツールとなっています。

こちら、7ページの二次元コードを読み込んでいただいてもよろしいでしょうか。

(デジタルコンテンツを再生)

(英語担当指導主事)

こちらの上から2つ目のデジタル思考ツールをクリックしてください。こちらは、どの指導内容をやっているときにも使えるもので、下のメニューの中に背景というのがあるので、その背景を押していただくと、それぞれの思考ツールに合わせた背景が出てきます。例えば、XチャートだとかYチャートと言われるよ

うな下の、そういったもので、それぞれの部分でテーマをそれぞれ、その題材によって設定していただいて、自分たちが考えたものをそこに分けて入れていたりするというような形で使えます。

実際に、自分たちの考えを記述するときは、カードをつくるという赤色の、ここでテキストを入力していただいて、決定を押していただくと、カードというか附箋のような形で貼りつけることができます。このような形で、附箋のような形で移動することもできるので、個別にいろいろな考えを出し合って書いたものを、自分で整理をするというような形で使うことが可能となっています。

(新倉教育長)

質問がないようですので、討論に入らせていただきます。
何かご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、技術・家庭（家庭分野）の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校技術・家庭（家庭分野）につきましては、『東京書籍』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『東京書籍』を採択候補として決定をいたします。
ここで10分ほど休憩を取らせていただいて、35分からの開始とさせていただきます。お疲れさまでした。

午後 3 時24分休憩

午後 3 時35分再開

(新倉教育長)

それでは、再開させていただきます。

次に、英語の教科書についての採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校英語は、発行者6者のうち、東京書籍を答申いたします。東京書籍は、4技能5領域をバランスよく取り入れ、生徒の読みたくなる・考えたくなる題材を多く用いています。また、デジタルコンテンツの圧倒的な情報量とともに、授業者にとっても扱いやすいよう大変工夫され、英語を使って学びを深めることに特化しています。

本市中学生の英語の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、英語については、東京書籍を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について、質問ございますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、英語の教科書についてですが、ただいま提案のありました東京書籍のほかに、委員の皆様の中で採択候補として推薦、審議したい教科書はございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、英語の教科書については、候補本東京書籍についての質問に入らせていただきます。

皆さんからご質問があればお願いいたします。

(元木委員)

それでは、私から2点ございます。

まず1点目が、採択資料18ページにおける採択の視点のエについてですが、小学校と中学校の学びがつながる工夫がされているとありますが、具体的にどのようなものでしょうか。事例を示して、説明をお願いしたいというところです。

もう1点目が、採択の視点の(カ)についてですが、デジタルコンテンツが大変充実しているとありますが、全教員が共通して授業中に活用する場面はあるのでしょうか。

同じ教科書を使っているでもデジタルコンテンツの使い方によって、授業の質が変わってしまわないか危惧しているところです。デジタルコンテンツの活用方針などがあれば教えてください。よろしくお願いいたします。

(英語担当指導主事)

1年生の教科書をご覧ください。緑の表紙のものでございます。目安として、目次をまず見ていただくと、目次は4ページになりますが、話戻します。目安として、夏休みまでの4か月、この4ページでいきますと、Unit 0から4は、小学校卒業までに扱った表現や単語、または文法事項を想起させ、聞くことや、話すことを中心とした単元構成となっています。

言語活動の内容としては、自己紹介、新しいALTとの出会い、そこでのやり取り、海外につながりを持つ生徒による家族への日本の学校の紹介を扱っているもの、姉妹校の生徒とのオンラインによる学校紹介になります。

ほかに、6ページをご覧ください。

6ページの下に小学校の単語という見出しで、小学校で扱った単語があります。このようなページが複数箇所あり、既習の単語や表現を想起させ、繰り返し扱いながら、中学校の学習をスタートさせるという配慮が見られます。

書くことについても、小学校では「写す」、または「なぞる」が基本であったことに対して、今まで扱ったことのある、今まで使ったことのある言葉を思い出して書くというようなことが少しずつ段階を踏んで、この中学校の教科書では進められるようになっていきます。

例えば、13ページをご覧ください。ちょっと進めていただけるといいかなと思います。この下に4線がございます。ここに見られるように、もう写す、なぞるではなく思い出して書きましょうというふうになっています。

読むことについては、1ページに表記される分量が小学校の教科書より多くなってきており、音声で慣れ親しんだ後に、読んで理解することで、少しずつ段

階を踏んでいくように配慮されています。

続きまして、デジタルコンテンツについてです。例として、デジタルコンテンツを開いていただけますでしょうか。指導者用のページの扉でございます。

(デジタルコンテンツを再生)

(英語担当指導主事)

これの左のところにサンプルが書いてあります。Book 2はこちらで、今、通り過ぎて、その右です。Book 2はこちらというところが、その一番最初のページでございます。扉です。少し拡大をしていただけますか。これの、「What is」ちょっと下の部分なのです。ここに単元導入時に、単元末の言語活動のイメージを想起されるための動画教材、これは指導者用のみにしか掲載されていないのですけれども、これは全員共通で使うことが想定されます。

ほかにも、1ページ、送っていただいて、新出単語がちょっと上のほうにあります。新出単語の発音やアクセントを踏まえて、発話練習をする際は、多くの場合は生徒個別にデジタルコンテンツを活用することが同様に想定されます。こちらは学習者用のデジタル教科書にも同じものがございますので、子どもたちはタップして、拡大して、発音練習をする。意味を表示させる、あるいは隠す、そういった機能が学習者用にはあります。

活用方針については、文部科学省が平成30年12月に発出し、令和3年度に改訂されました学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドラインの学習者用デジタル教科書の使用に当たり留意すべき点についてというところに示されている点を、学習者用デジタル教科書の活用研修や研究授業での指導、助言の際などに具体場面を捉えつつ、確認をするようにしています。

主な例としましては、紙の教科書と併用すること、指導者用デジタル教科書を一方的に示すことが活用ではなく、生徒が個別に自身の端末で必要に応じて、活用するのか、しないのかを判断するように配慮すること、思考、判断、表現を伴う活動にリンクする活動をすることです。

(新倉教育長)

すみません、今の部分で元木委員がおっしゃっているのは、教育委員会がこの教科書を使って、通知文だけ流しているのですかという話なのだよ。それぞれ個別の先生がこの教科書を使うときに、レベル差が生じてしまっているのではないかという心配に対して、具体的にそういった先生方に何をしているのというところがないのという質問だと思っています。

(英語担当指導主事)

具体の活用については、先ほど申し上げた活用研修を開きまして、実際に活用している教員を講師として活用して、参加している教員を生徒役、そして講師の先生が実際に使って、こういうふうに活用できますよねという実践を紹介し、共有をしております。ここでは、皆さん使えます。

(新倉教育長)

それは、全ての先生なのですねという念押しなのだよ。

(英語担当指導主事)

全ての教員ではありません。学校の代表の教員が参加している研修でございます。

(新倉教育長)

というのを、元木委員は心配してくださっている。だから、レベル差が生じてはいけないだろうから、それを教育委員会として実践すべきでしょという今言っていたいただいているのだというふうに理解しています。そうしたら、どうやったら具体的にできるかということを検討してください。

(英語担当指導主事)

広く多くの教員に共有できるように、今後、研修の在り方考えてまいりたいと思います。

(新倉教育長)

ごめん、全てです。

(英語担当指導主事)

全てです。ありがとうございました。

(荒川委員)

私から2つ質問させていただきます。

まず、会議録30ページの調査部員の推薦理由の中に、生徒の読みたくなる、考えたくなる題材を多く用いているとの記述がありますが、どのような題材か具体的に幾つか紹介していただければと思います。

同じく、会議録30ページの事務部員から推薦理由の中に、社会的な話に深く踏み込み、幅広く世界を知ることができるとの記述があります。どのような社会的

な話に取り上げられているのか、また、深く踏み込んでいると感じるのはどのような点か教えていただければと思います。よろしくお願いします。

(英語担当指導主事)

最初の質問についてです。1年生の単元例では、まず、81ページをご覧ください。こちらイギリスのオンラインツアーを題材して、異文化理解が深まり国際的な視野が広がること。そして、2年生の教科書をご覧ください。49ページに海外にホームステイに行くことを通じて習慣や文化の違いを知ることができること。3年生の事例では、9ページをご覧ください。

こちら、日本のアニメ等に代表されるポップカルチャーを題材にして、海外の人たちの視点から自国、我が国の、文化の特徴や独自性を再認識することが挙げられます。こういった題材は、子どもたちの知的好奇心を捉え、刺激し、主体的な学びにリンクすると考えております。

また、2番目の質問でございます。2年生の教科書にお戻りください。

こちら、先ほど49ページを開いていただきましたが、ちょっと進んで59ページです。ここで扱っているユニバーサルデザインについて、ただ、ユニバーサルデザインの概念を知ることだけではなく、ユニバーサルデザインを提唱した人物の理念を理解したり、身近にあるユニバーサルデザイン製品や今後必要になると予想されるユニバーサルデザインを考えていくなど、深まりが期待できます。

3年生の教科書51ページをご覧ください。ここから始まる防災に関する単元では、災害に備えることや、いざというときには助け合うことの大切さを学ぶだけではなく、災害の多い日本において、自分たちだけではなく、日本に住む外国人の防災について問題提起するなど、今後の多様化される時代の状況を捉え、防災の在り方を考え直すことが期待できます。

(新倉教育長)

今の質問の中で、例えば、1年生の81ページの単元でのイギリスのオンラインツアーというのは、これは何か別に映像があって、何かするわけではなく、そこにいる3人とか4人が演じるということでもいいのですか、この部分で。

(英語担当指導主事)

これは、実際に84ページをご覧くださいと、ケイトという登場人物が実施しているオンラインツアーに参加している、その場面なのですけれども、これが映像として教材では提供されていることになります。少し進みまして、86ページでは、それを基にやり取り、これを題材としています。

(新倉教育長)

このページでいくのだったら、81ページから始まると、83ページの二次元コードを読むと、これがそのまま映像で出てくるのですか、しゃべっているのが。

(英語担当指導主事)

実際、この単元でオンラインツアーが映像として、教材としてアップされているかどうかまでの詳細の確認は、調査部会ではいたしませんでした。サンプルでは、恐らくないのではないかなと思います。サンプルではここまで見るができないのではないかなと。Unit 2 のみなので。

(新倉教育長)

では、83ページの二次元コードは読み込めないということでしょうか。

(英語担当指導主事)

いえ、読み込んだものをこちらでデジタル教科書のサンプルがこの画像です。サンプルはUnit 2 だけサンプルで見ることができる状態になっております。

(新倉教育長)

その前に音声というのがメニューであった、それは何。

先ほどの横についていたニューワールドの部分についてとかね、ページの頭にある。

今、ここでわざわざそう言って、異文化理解が深まりというふうに説明をしてもらっていたので、現実的に、書いてあるのは、昔といたらいけないのだけれども、例えば、二人でペアになりながら、あなたはこっち、あなたは彼をやりなさい、私は彼女を行うからみたいに、トーキング的に行うものではなく、画面映像できちんとそういったものがしゃべってくれるというから、オンラインツアーなのですかという確認だったの。だけれども、その映像は分からないということなのね。オンラインツアーの意味が分からない。

(英語担当指導主事)

実際、ツアーに参加するというのは、その国に行って参加するイメージなのですけれども、オンラインツアーはそこに行かなくても現地から中継されているものを見ることで、ツアーに参加する。それがオンラインツアーだと認識しています。

(新倉教育長)

だとすると、このページでやっている何がオンラインツアーになるのですか。しゃべっているのをただ見ているのですか。役割分担ができるのですかという話。

(英語担当指導主事)

このデジタル教科書の完成版を見ていないので、どこまでの動画の教材が提供されるかというのは分からないのですが。

(新倉教育長)

だから分からないのは、先ほどの回答の中で、イギリスにおけるオンラインツアーだとかということがあって、異文化が体験できるって、だからこれを選んだのだって、あなたたちが言っているから、具体的にどんなものなのって聞いている。でも、見ていませんと言われたら、おかしくなってしまうでしょう。

(英語担当指導主事)

イギリスのオンラインツアー、イギリスのツアー映像というか、各観光スポットであるとか、文化等を紹介するような動画は、ここでなくてもいろいろなところで探すことができるので、そういったものを教員が教材として準備をし、それを見てやり取りをする、意見、考えを交換するような活動をするというような活動につながるのではないかなと考えています。

(新倉教育長)

ごめん、82ページ、83ページにある会話は、これが映像で出てくるのですか、そうではなく、ここにいる4人を、今までみたいにいるクラスの仲間が演じるのですかって聞いたのです。そうなりきることによって、異文化だとかを経験することをやるのですかって聞いているのです。ここはどういうふうに授業が展開されるの。

(英語担当指導主事)

これは、想定している会話はモデルなので、ここからどういうやり取りをしているのでしょうかということを読み取って、練習としては、ロールプレイをすることもありますが、内容を理解して、では、皆さん、これを踏まえて、あるテーマで。

(新倉教育長)

だから、先ほど、回答にあったように、このページでオンラインツアーを題材として異文化理解が深まり、国際的な視野が広がるという判断をしたのは何なのと聞いているの。見ているから、そういう判断でこの教科書がいいと言っているのでしょと聞いているの。でも、見ていないと言われたら、今の回答、全部なしになってしまうよ。だから、この授業ってどういうふうに展開するの。だから、効果あるって皆さん言っているのでしょう。

(英語担当指導主事)

実際に、このイギリスを紹介する動画を見て、そこから得たことを基に、自分たちの国の文化について考える、比較をする、そして意見を述べ合う、感想を言い合う、場合によっては書くことにもつながる。こういうふうに授業が展開していけるのではないかなと。ただ単に見て、イギリスすばらしい場所だなというふうに感じるのでは終わるのではなく、そこから、では、自分の国は、歴史的な側面はどうなのだろうかというのを振り返って考えるということにつながっていくのではないかという単元。そして、興味を持ちやすい題材ではないかなと思ひ、例として挙げさせていただきました。

(新倉教育長)

ここの会話とこのページのものを読み上げることによって、それが吸収できるということを行っているのですか。

(英語担当指導主事)

読み上げるだけでは、不十分かと思ひますので、やはりやり取りをするということが必要ではないかなと判断します。

(新倉教育長)

誰と何をやり取りするの。

(英語担当指導主事)

子どもたち同士が、この題材を使って話を、意見を交わし合うと、考えを述べ合うと、そういった活動、それを指してやり取りと言っていますが、そういった活動が。

(新倉教育長)

そうすると、このページは、あなたが指導者としてやって、子どもたちにどう

いうふうに授業展開できるの。それが効果がある、そういういい題材なのだということだから、この教科書を選んでいるのでしょ、皆さんで。

2年生だったら、49ページの海外のホームステイだ、3年生だったら、9ページの日本語のアニメだとかというふうに、さっき述べたのでしょう。想像が着かないのだよ。今までと同じように、単なる英会話の部分の言葉があって、単純に考えれば、これまでは、それぞれの役割をみんながやって、英会話にそれぞれ慣れましょう、発言がうまくいきましょうというところだったのだよ。それが、今回、デジタルや何かだったらなるのですか。単なる、これは、オンラインツアーにおける場면을言っているだけであって、オンラインツアーがされるわけではない、そこが分からない。だから、ここにある二次元コードは何なのかねって言っているだけ。読む限りにおいては、音読しか入っていないから、つまり、この会話がそのまま音として出てくるというだけなのですかということを確認したわけなのです。

(英語担当指導主事)

実際に、映像や写真とともに、この文を読みながら、理解をし、例えば、では、皆さんだったら日本の自分が決めた場所について、オンラインツアーを組むとしたら、どういうふうにやっていきますかというふうに捉えると、この場面ではこういうことを紹介しているから、では、私だったら、日本のこういう場所を、ここ紹介しようというふうに置き換えて。

(新倉教育長)

だから、ごめん、見ていないのでしょう。映像がないのだから。つくっては駄目ですよ、人を説得しようとして。調査と検討部会の皆さんも、多分そうだろうということでここを決めているのという質問になってしまうのですよ。今、ここにあるアニメだとかって言っているのは、3年生の9ページか何かというのはそれになるの。だったら、まだ、確認の取りようがあるのだけれども。

(デジタルコンテンツ再生)

(新倉教育長)

というのが作られてくるということなのですか。

そうすると、そういったことを想定した中で、1年生だと49ページの分だとか、2年生だと何かということが、テーマの設定として適切だと思ったからこの本が選ばれたのだということでもいいのですかって。

(英語担当指導主事)

おっしゃるとおりです。

(元木委員)

1点だけ。先ほどの回答の中で、ちょっと気になる点があったのですが、調査部会のほうでは、デジタルコンテンツの内容について、全て確認していないといった話があったと思うのですが、今回の採択理由の中に、デジタルコンテンツの圧倒的な情報量という話があったと思います。では、この内容については確認していないということによろしいですか。

(英語担当指導主事)

こちら、サンプルのページを各者紹介を受けていまして、それを見て比べた調査結果でございますので、6者分全て見た上で、今回、選びました東京書籍の情報量、機能が優れていたと判断した次第でございます。

(元木委員)

あくまでもそのサンプルのページのみということですね。となると、全体を見ていないので、全体のデジタルコンテンツの量って、各社で分からないと思うのですけれども、それはいかがでしょうか。

(英語担当指導主事)

6者分全て見ることはできませんでしたが、サンプルのページを比べて、そして、現行使っているのがNEW HORIZONですので、そこから全体をイメージした調査結果であると言えます。

(元木委員)

イメージしたのだと、事実と違う可能性があると思うのですけれども、それはいかがですか。

(英語担当指導主事)

与えられたサンプルを比べた上での調査結果ですので、それを比べた上で、やはり情報量が差があるというふうな調査結果でした。

(新倉教育長)

今の質問はそういう話ではないの。A社はサンプルが1つしかないけれども、B社は6つあった。でも、最終的にできたときは、A社が10個あったのに、B社

はサンプルは6あったけれども、8しかなかったといったら、最終的なコンテンツの数って確認が取れないのではないか。だから圧倒的だと言えないのではないのですかってというのが元木先生の質問。

現時点で、把握できている限りにおいては、ほかの会社のサンプルというのは、これまでもほかの教科書を見せていただく限りだと、単に二次元コードから読んだ映像や何かしかないのだけれども、東京書籍はこのようにインデックスでメニュー化がされているということにおいて、つくり方がまず違っていたよねというところでいいですかというのが、多分引き出したい答えなのだと思う。

今日、1日いらっしゃって、ほかの保健体育や何かもそうだったけれども、東京書籍の場合には、こういう形でインデックスとか、サンプルがきちんとあって、そこから飛ばす方法を取っているのだけれども、ほかのサンプルは同じような方法なのですか。我々見ていないから分からない。それと比べて構成力が圧倒的に東京書籍がよかったですよというふうに皆さんは判断したのですかというのを確認で聞いているのだよ。サンプルの量ではなくて、サンプルの質かな。そこを教えてほしい。

(英語担当指導主事)

そういったことでしたら、先ほどから東京書籍のデジタルコンテンツで、ご覧の画面でお分かりになるとおり、プレビュー、そして、この後、単語もここで操作できますし、いちいちページに戻って、二次元コードを読み込んでということとをせずに使いたい場所を選んで表示して、さらに、その表示した場面でも本文と挿絵を別々に表示させて活用することなど、多くの機能が含まれています。

(新倉教育長)

悪いけれども、ほかの教科書の二次元コードの、どこでもいいから読み込んでみていただいて、差があるということが確認できればそれを。

(デジタルコンテンツ再生)

(元木委員)

今回、英語についてはデジタル教科書ですよ。なので、デジタル教科書からのアクセスとなると、一旦、ブラウザでこのページに飛んでというよりも、この1人1台端末上で教科書表示した状態で、多分、タッチして飛んでいく形になると思うので、そのインターフェースの違いというところも結構大事だと思うのです。

これだと、紙の2次元コードを読み込んで、このページに飛んでという扱い方

ですけれども、これから先の使い方というのは違って、併用しながら使っていくというところになりますので、そのコンテンツへのアクセスの仕方だったりとかというところ差はなかったかということについてはいかがでしょうか。要はデジタル教科書として、多分サンプル同士の比較という形になると思います。

(英語担当指導主事)

学習者用のデジタル教科書については、先ほどご覧いただいたように、今回ユニット2は各者、限られたものしか参考にすることができなかったのですが、ここは、全て比較調査検討いたしました。それを踏まえた上で、操作性、機能はご覧いただいている東京書籍が優れていたという評価をした次第です。

(元木委員)

操作性というところ、先ほどやったとおり、これ自体はデジタル書籍、書籍用アプリというか、ブラウザ上で動くアプリケーションにのっかっているものですよね。その中で、実際に拡大とかもそうですし、リンク先のところもクリックしたりといった形で、完全にこのデジタル版としての機能がもう完成されているイメージだと思うのですよ。

なので、多分、次のページに送っていくと、それぞれ、送ってもらっていいですか。実際にこの中で、スピーカーマークついているところ押すと聞けたりなどというところが、完全にデジタル教科書の中で、デジタルコンテンツが再生されるというような、一体化されている状態だということだと思います。

なので、こういったユーザーインターフェースのところも含めて、デジタル教科書としての完成度が、開隆堂よりも高かった、ほかの教科書、出版社よりも高かったというような評価だと思うのですけれども、そういった理解で大丈夫ですか。開隆堂のところと比較していただけるとありがたいです。

(英語担当指導主事)

元木委員がおっしゃったように、間違いはないのですけれども、2者を並べて本文はこう、単語はこうというふうに1個1個比べたわけではない、そういう報告は受けていませんが、全部を比べてみたときに、やはり圧倒的に使いやすいのは東京書籍だ、使いやすいというか、子どもたちに使わせやすい、子どもたちが学ぶのに活用しやすいのはこれだろうという判断でした。

(デジタルコンテンツ再生)

(元木委員)

今、操作いただきましたけれども、実際に、動画飛んで、見た上でバツマーク消したら、また、元のデジタルコンテンツに戻れるけれども、さっきのSunshineの場合だと、別のタブに飛んじやっているから、そこを消したとしても元のデジタルコンテンツに戻ってこられないという形になりますよね。なので、そういったところの使い勝手の点でいったら、多分NEW HORIZONがいいのではないかなというふうに思いました。

(新倉教育長)

それでは、質問ないようですので、討論に入らせていただきます。あと、何かご意見があれば。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、英語の教科書に関する審議は終了させていただいて、採択候補を決定したいと思います。中学校英語について『東京書籍』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『東京書籍』を採択候補として決定いたします。

(新倉教育長)

それでは、次に、道徳についての採択候補の決定を行います。
教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長、説明をお願いします。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

中学校道徳は、発行者7者のうち、あかつき教育図書を答申いたします。
あかつき教育図書は、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるための工夫が大変優れています。また、テーマがバランスよく配置されており、年間を通して構成や教材の適切な配置がされているとともに、ねらいに対する発問が精選されている点などが、生徒にとって扱いやすいものとなっています。

本市中学生の道徳の力を育成するためにふさわしい教科書と判断し、ここに答申いたします。

(新倉教育長)

次に、提案説明をお願いします。

(教育指導課長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長から説明がありました答申を踏まえ、道徳については、あかつき教育図書を採択候補として提案いたします。

(新倉教育長)

ただいま教科用図書採択検討委員会委員長兼部会長及び教育指導課長からの説明について、質問はありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、道徳の教科書について、教育指導課長から提案のありましたあかつき教育図書のほか、委員の皆さんの中で、推薦、採択する候補がありましたら審議したい教科書ございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、道徳の教科書については、候補本として、あかつき教育図書について質問を受けたいと思います。ご質問のある方どうぞ。

(澤田委員)

採択資料19ページ(オ)の「マイ・プラス」のページで体験的な学習とありますが、具体的にどのようなものでしょうか。

(道徳担当指導主事)

道徳科では、道徳的価値に迫るために、生徒に特定の役割を与え、即興的に演技をする役割演技を取り入れるなど、多様な方法による表現が試みられます。例

例えば、あかつき教育図書、1年生の教科書の92ページには、電車の中の様々な立場をイメージしやすいようになっています。

また、3年生の教科書12ページには、大谷翔平選手の目標設定シートが取り上げられており、生徒自身が目標設定シートを書いたつもりになって、考えられるので、夢を実現するために大切なことなどに迫ることができます。

実際の場面を追体験するなどによる学習活動は、実感的な理解につながります。そのため、「マイ・プラス」のページは道徳的価値を様々な角度から捉えるために、有効な手立ての一つであるといえます。

(荒川委員)

では、私から2つ質問させていただきます。

先ほど、他の教科でも出ていたのですが、採択資料19ページ(イ)に全てのユニバーサルデザインフォントとなっているとのことですが、これは、あかつき教育図書だけなのかということ。

それと、2つ目は、採択資料19ページ(ウ)に自分との対話や自分を見つめて考えるようになっている点が生徒にとって特に扱いやすいとの記述がありますが、具体的にどのような特徴があるのか教えていただければと思います。

(道徳担当指導主事)

まず、初めの質問のユニバーサルデザインフォントについてなのですが、いずれの教科書でも、ユニバーサルデザインフォントが採用されているという表記があります。しかし、それぞれの教科書のフォントの太さ、大きさ、それから柔らかさとか、行間などを比較したときに、最も「圧迫感」という表現で伝わるかと思うのですが、圧迫感がなかったのがあかつき教育図書でした。

例えば、あかつき教育図書の1年生の教科書の6ページ、これは小学生から中学生になったときに出合うページですが、1年生の教科書の6ページと例えば日本教育出版の同じく1年生の教科書の6ページ、同じタイミングのところですが、この1年生の6ページを比較してみると、その印象は大きく異なり、あかつき教育図書のフォントのほうが、多くの生徒の学びを支えるものになるだろうということで、調査部会では話題になりました。

次に、(ウ)に関するご質問ですが、あかつき教育図書の各教材の最後には、自分を見つめて考える問いやいろいろな見方で考える問いが用意されています。例えば、あかつき教育図書の1年生の教科書、13ページや27ページですが、これらの問いはコンパクトに記述されているため、生徒にとって考えやすいものでした。

また、教師にとってもこの問いをヒントにして授業づくりを行うことができ

るので、あかつき教育図書が扱いやすい教科書であると評価されました。

(荒川委員)

1点目の質問の、そのユニバーサルフォントのことで、圧迫感がないというような見方をして選んでいただけたというのはすごくいいなと思いました。やはり、中学生になって初めて見る教科書の中で、そういうことというのもすごく大事だなというふうに気づかされました。ありがとうございました。

(元木委員)

採択の視点の(ウ)に、ねらいに対する発問が精選されているとあります。クラスの道徳的な成熟度に応じて、幾つかの発問が記載されている教科書を使って、教師が発問を精選する、あるいは発問が教科書ではなく、教師自らが発問を考え、精選するといった授業展開も考えられると思います。発問が精選されることで得られるメリットをお示しいただけますでしょうか。

(道徳担当指導主事)

先ほどの回答と少し重なるのですが、教科書に掲載されている問いは例になると思います。まずは、この例があることによって、問いがあることによって、教材研究や授業準備をするときの手がかりになります。

実際の授業では、元木委員のおっしゃるとおり、目の前の生徒の発達段階や発言の内容などによって、教師がその場で最もふさわしい発問を考え直し、授業を展開していきませんが、精選された問いの例があらかじめ掲載されていることによって、授業の見通しを持つことができ、授業準備を充実させること、これによって生徒の学びを充実させることにつながると話題になりました。

(元木委員)

要は、発問自体をきっかけとして、さらにディスカッションを深めていくというような使い方をしていくという理解でよろしいでしょうか。

(道徳担当指導主事)

はい。

(新倉教育長)

質問がないようでしたら、討論に入ります。

何かご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、道徳の教科書に関する審議を終了し、採択候補を決定したいと思います。

中学校道徳につきましては、『あかつき教育図書』でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、『あかつき教育図書』を採択候補として決定いたします。

以上で、各教科の審議が終了いたしましたので、今、ここで採択候補の確認をいたしますので、しばらくお待ちいただければと思います。

中学校全教科・種目の採択候補について教育長と事務局が再度確認

(新倉教育長)

確認が終わりましたので、中学校教科書の採択について決を採りたいと思います。

議案第28号『令和7年使用の中学校教科用図書の採択について』は、国語、光村図書、書写、光村図書、社会（地理）、帝国書院、社会（歴史）、帝国書院、社会（公民）、帝国書院、社会（地図）、帝国書院、数学、学校図書、理科、東京書籍、音楽（一般）、教育芸術社、音楽（器楽合奏）、教育芸術社、美術、光村図書、保健体育、東京書籍、技術・家庭（技術分野）、東京書籍、技術・家庭（家庭分野）、東京書籍、英語、東京書籍、道徳、あかつき教育図書の教科書を採択することで賛成の方の挙手をお願いをいたします。

採決の結果、議案第28号は「総員挙手」をもって、教育長が読み上げたとおり採択することで可決・確定する。

日程第3 議案第29号『令和7年度使用高等学校教科用図書の採択について』

(新倉教育長)

続きますして、議案第29号の審議に当たりまして、米持教科用図書採択検討委員会部会長に出席をいただきます。

教育長 議題とすることを宣言

(新倉教育長)

審議に入る前に、教科用図書採択検討委員会委員長より、検討の経過に対する説明を求めたいと思います。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

高等学校の教科書採択につきまして、これまでの経緯を説明いたします。

本日に至るまでに採択検討委員会を2回実施いたしました。第1回は5月10日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。そして、調査部会による十分な調査により作成された教科用図書選定理由書に基づき、採択検討委員会専門部会を7月17日に実施し、種目ごとに検討を行いました。

同日、採択検討委員会で調査部会による調査結果を慎重に審議し、答申内容を決定し、本日に至っております。

答申内容については、部会長から報告をいたします。

(米持教科用図書採択検討委員会高等学校専門部会長)

それでは、答申内容について私からご報告いたします。

全日制課程、定時制課程ともに全ての候補本を対象として検討いたしました。横須賀総合高等学校では、令和4年度から年次進行で、現行の学習指導要領に基づいた教育課程によって教育活動を行っております。

そのため、令和4年度以降に入学した生徒が使用する教科書は、現行の学習指導要領に基づいて編集された教科書を使用しますが、令和3年度以前に入学した生徒については、従来の学習指導要領に基づいて編集された教科書を使用します。定時制においては、令和3年度以前に入学した生徒が、令和7年度に在籍する可能性がありますので、2つの学習指導要領に基づいて編集された教科書を使い分けることとなります。

しかしながら、多くの科目においては、従来の学習指導要領に基づいて編集された教科書が発行されていません。このような場合は、現行の学習指導要領に基づいて編集された教科書を選定しています。

また、一覧表(様式1)の中で、ゴシック体、太字で表記してあるものは、これまで採択していた教科書を変更しようとする科目です。定時制の28番、書道Ⅰ、

番号308については、これまで採択していた教科書が、今後、発行されないことから、変更して選定しております。ただしこれは、従来の学習指導要領に基づいて編集された教科書です。

横須賀総合高等学校のスクール・ポリシー及び各課程の学習指導の重点、各教科の目標に照らして選定しています。具体的には、全日制課程は多様なニーズをもっている総合学科の生徒たちに適したものを、一方、定時制課程につきましては、生徒の実態に応じて、理解や定着のしやすいものを選びました。

以上、答申いたします。よろしく願いいたします。

(新倉教育長)

それでは、議案の説明をお願いいたします。

(教育指導課長)

議案第29号『令和7年度使用高等学校教科用図書の採択について』説明をいたします。

本議案は、高等学校教科用図書について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき採択しようとするものです。

横須賀市立横須賀総合高等学校では、種目、科目ごとに高等学校教科書目録に記載された検定本、著作本について調査を行い、教科用図書採択検討委員会において検討、審議しました。その結果がお手元にある採択候補案です。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

(新倉教育長)

まず、検討経過についての質問を伺います。候補本についての質問は、後ほど時間を取りますので、そのときをお願いをしようと思います。

まず、検討経過についてご質問はありますか。

(質問なし)

(新倉教育長)

それでは、高等学校の教科用図書については、横須賀総合高等学校の全日制課程及び定時制課程の教科用図書の採択一覧が議案として提出をされています。つきましては、初めに継続分について審議を行い、次に新規・変更の採択候補の審議を行いたいと思います。採択の決については、全ての教科の採択候補決定後に一括して行いたいと思います。

なお、委員の皆様の中で一覧のほか採択候補として審議したい教科書があ

る場合には、その教科についての審議及び採択候補の決定を区分していきたいと思いますが、このように進めてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ありがとうございます。異議ないことで、そのように進めさせていただきます。それではまず、継続採択する採択候補の審議を行います。継続採択する採択候補についてご質問がありましたら、お願いいたします。

(澤田委員)

「高等学校物理基礎」についてお尋ねします。この教科は令和5年度が数研出版「高等学校物理基礎」、そして令和6年度が啓林館「高等学校物理基礎」に変更になり、前年度の教科書採択の議論の中で、様々な意見が出されたと記憶しております。

その際の変更理由は、実際に授業で使用し、幾つか不具合があった点や、新たに選定した「高等学校物理」と同一の出版社とすることで、使用されている文字や記述の統一性を図り、生徒に混乱を生じさせない点などを考慮してとのことでした。議論の中で、数研出版「高等学校物理基礎」で学んで、3年生で啓林館「高等学校物理」を学ぶ生徒に対して、授業の中でフォローしていくという発言があったと思います。スムーズな学びにつながっていますでしょうか。現状をお聞かせいただければと思います。

(米持教科用図書採択検討委員会高等学校専門部会長)

私も、この令和5年度に数研出版の物理基礎を2年次生で学んだ生徒が令和6年度、本年度、3年次に上がって、今度は啓林館の物理を学ぶといったところで、不具合はなかったのかということが気になっておりましたので、7月の初旬に担当教員と懇談して、報告を受けました。それによりますと、特に先に結論から申し上げますと、課題になっていた公式に関わる部分というのは、物理量、その公式の物理量の意味をきちんと説明しながら指導したため、大きな混乱なく授業ができたという報告を受けています。

この具体を少し説明させていただきますと、昨年の変更理由である不具合と委員がおっしゃりました部分につきましては、個体・液体・気体のうちの、気体の部分、気体の部分の熱力学第一法則の公式の表現の仕方についてということが課題になっていました。

今年度、令和6年度の啓林館では、この方式というのはQイコールタンジェントUプラスWというふうな公式になっていまして、これはQというのは、気体に与えた熱量、これが主語になっていると考えていただいて、気体に与えた熱量イコールタンジェントUというのは、気体が内部に蓄えるエネルギーの増加量、タンジェントというのは、増加という意味ですので、Uは、エネルギーということになります。このエネルギーの増加分とプラス、気体というのは熱を加えると膨張します。膨張すると、物を押します。ですから、その押している仕事量、これをWで表すのですが、その増加したエネルギー量とそれから気体がした仕事を足したものがイコール加えた熱量と同じであると、そういう式なのです。

これ、こうやって説明すると非常に難しく聞こえるのですが、これは中学校1年生で習う文字式にあてはめると、AイコールBプラスCなのです。これは、Aが3だとしたら、Bが2で、Cが1ならば成り立つ式です。3イコール2足す1、そういう関係の式なのです。令和5年度の数研出版では、これがちょっと順番が変わって、今でいう、AイコールBプラスCが、主語がBイコールになっていて、BイコールAマイナスCになっていたのです。具体的にいうと、タンジェントU、つまりエネルギーの増加分は加えた熱量Qから仕事の量を引いたものであるという表現になっていたということなのです。

これが、本校の教員で議論した中では、やはり今年度使っている啓林館で表現されているQイコールタンジェントUプラスWというほうが、物理の世界では一般的であると、ですから、こちらを使っていきましょうということで、これを選んできたというのが去年の経過であったということです。

では、令和5年度にこのちょっと順番の違う公式で学んで子たちが、今年、今年度は啓林館の物理をやっていますので、そうすると啓林館の物理では、物理基礎に書いてあるものと同じ表現がされていますから、ちょっと混乱するのではないかと委員が心配されていると、これについては、先ほどもございましたが、指導する中で、このQとか、タンジェントUとか、Wというものの意味、そして今、私がちょっとA、B、Cで解説したような、そういう式の入替え、こういったことを説明し、さらに、気体の熱膨張ですから、教員は授業の中でちょうどシリンダーの中に入っている気体に熱を加えて、ピストンが押される。具体的な例はガソリンエンジン、内燃機関のピストン、あれを例に取りながら、加えた熱によって気体が膨張して行って、そして、ピストンをして仕事をしているという、そういうイメージを生徒に与えながら、加えた熱量はQである。そして、その中の気体が持っている内部エネルギーはタンジェントUである。そして、ピストンを押した仕事はWであるということを確認しながら、この式の意味を教えていったということです。

それが分かりましたので、公式だけをただ丸暗記するのではなく、意味ま

でしっかりと理解をしているという、こういう深い理解につなげるような授業ができていくということも私は確認できましたので、これについては混乱なくできたというふうに考えております。

(新倉教育長)

それでは、次に、新規及び変更のあった採択候補の審議に入らせていただきたいと思えます。新規及び変更のあった採択候補について質問がございましたらお願いをいたします。

新規というふうに言ってしまったのですが、今回は変更1件でよろしいのですよね。申し訳ありません。

変更のあった採択候補について質問がありましたらお願いをいたします。

(質問なし)

(新倉教育長)

議案にあります候補本のほかに、委員の皆様の中で採択候補として審議したい教科書があれば、ご推薦いただけますが、ございますでしょうか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、討論に入ります。何かご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、高等学校につきまして、議案の一覧に記載の教科用図書を採択候補としてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、高等学校の教科用図書については、議案の一覧に記載の教科用図書を採択候補として決定し、決を採らせていただきます。

採決の結果 議案第29号は「総員挙手」をもって、原案どおり可決・確定する。

(新倉教育長)

ここで、議案第29号のためにご出席いただきました米持教科用図書採択検討委員会部会長につきましては退席いたします。ありがとうございました。

日程第4 議案第30号『令和7年度使用特別支援学校及び特別支援学級教科用図書の採択について』

(新倉教育長)

また、議案第30号の審議に当たりまして、村野教科用図書採択検討委員会部会長にご出席をいただきます。

教育長 議題とすることを宣言

(新倉教育長)

審議に入る前に、教科用図書採択検討委員会委員長より検討の経過に対する説明を求めたいと思います。

(渡邊教科用図書採択検討委員会委員長兼中学校専門部会長)

特別支援部会の教科書用図書採択につきまして、これまでの経過を説明いたします。

本日に至るまでに採択検討委員会を2回実施いたしました。第1回は、5月10日に開催し、基本方針、調査方法の確認を行いました。そして、調査部会による十分な調査により作成された教科用図書選定理由書に基づき採択検討委員会専門部会を7月17日に実施し、種目ごとに検討を行いました。

特別支援教育については、児童・生徒の実態に応じて教科用図書を選んでいくため、大変多い冊数ではありますが、その教科も誠実に評価をされておりました。

同日、採択検討委員会で調査部会による調査結果を慎重に審議し答申内容を決定し、本日に至っております。

答申内容については、部会長から報告をいたします。

(村野教科用図書採択検討委員会特別支援教育専門部会長)

続きまして、答申内容について私から報告いたします。

特別支援教育におきましては、特別支援学校のろう学校と養護学校、小・中学校の特別支援学級があります。これらにつきましては、児童・生徒の実態に応じて教科用図書を選んでいきます。対象となる本は、検定本、文部科学省が定める著作本、学校教育法附則第9条で規定されている一般図書の中から採択することができます。したがって、対象となる本が大変多いこととなります。

調査作業についてですが、ろう学校、養護学校、小学校・中学校における特別支援学級では、それぞれの調査部員を中心に詳細に調査・評価いたしました。採択検討委員会専門部会を7月17日に実施し、慎重な審議の上、原案を作成いたしました。

内容についてですが、ろう学校高等部用検定本46冊、ろう学校用著作本18冊、養護学校用著作本7冊、小学校特別支援学級用著作本5冊、中学校特別支援学級用著作本10冊、ろう学校用附則9条本21冊、養護学校用附則9条本147冊、小学校特別支援学級用附則9条本21冊、中学校特別支援学級用附則9条本36冊、検定本については小学校、中学校で採択されたものを使用いたします。

ろう学校用高等部の検定本については、令和7年度は全ての教科用図書を継続して選定しております。

全ての候補本を調査対象として検討しました。

以上、答申をいたします。よろしく申し上げます。

(新倉教育長)

次に、議案の説明をお願いします。

(教育指導課長)

議案第30号『令和7年度使用特別支援学校及び特別支援学級教科用図書の採択について』説明をいたします。

本議案は、特別支援学校及び特別支援学級教科用図書について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条及び学校教育法附則第9条の規定に基づき採択しようとするものです。

無償措置の対象となる特別支援学校における小・中学部及び特別支援学級にあつては、小・中学校教科用図書、特別支援学校教科用図書目録に記載されている教科用図書、学校教育法附則第9条の規定による一般図書が給付の対象となります。また、無償給与の対象外の高等部においては、高等学校用教科用図書目録に記載された教科用図書を使用することとなります。

学校教育法附則第9条の規定による一般図書につきましては、文部科学省初等・中等教育局教科用図書課長からの通知を参考にして、児童・生徒の障害の状

況に最もふさわしい内容であることや、系統的に編集されていること、使用上適切な体裁であること、高額過ぎない価格であることなどの事項に留意をして採択すること並びに採択した図書が給付される見込みであることなどに留意して審議することとされております。

また、採択された教科用図書については、採択一覧の中から各学校が児童・生徒に合わせて選択し、給与することとなります。

以上の点を踏まえ、教科用図書採択検討委員会において検討、審議がなされました結果がお手元にある採択候補案です。また、本日は一部ですが見本となる一般図書等も用意をしてあります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

(新倉教育長)

ありがとうございます。

それでは、まず検討経過についてのご質問を伺います。候補本についての質問は後ほど時間を取りますので、そのときをお願いいたします。

まず、検討経過についてまず質問がありますでしょうか。

(質問なし)

(新倉教育長)

次に、本議案についてですけれども、まずは、ろう学校の高等部の教科用図書について、採択候補の審議、決定を行いたいと思います。

その後、ろう学校高等部以外の特別支援教育の教科用図書については、児童生徒一人一人の実態に応じて選んだ採択候補の一覧を基に、一括して採択候補の審議、決定を行いたいと思います。

採択の決については、全ての採択候補を決定した後に挙手により行いたいと思いますが、これにご異議ありませんでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、進めさせていただきます。

それでは、まず、ろう学校高等部について、採択候補の審議を行います。

提案いただきました採択候補について質問がありましたらお願いいたします。

(質問なし)

(新倉教育長)

議案として出されました候補本のほかに、委員の皆さんの中で採択候補として審議をすべき教科用図書はありますでしょうか。ございませんか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

ないようですので、討論に入ります。何か意見はございますでしょうか。

(意見なし)

(新倉教育長)

ご意見ないようですので、ろう学校高等部につきましては、議案の一覧に記載の教科用図書を採択候補としてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、ろう学校高等部以外の教科用図書については、議案の一覧に記載の教科用図書を採択候補として決定いたします。

続きまして、ろう学校高等部以外の教科用図書の採択候補の審議に移ります。

こちらにつきましては、児童生徒一人一人の実態に合わせ、議案6ページのろう学校小・中学部用から、18ページの中学校特別支援学級用までの採択候補が一覧として提案されております。

議案にあります候補本の他に、委員の皆様の中で、採択候補として推薦、審議したい利用図書はございますか。該当がある場合は、推薦したい本の、校種・教科、発行者、書名等をご提案いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(各委員)

推薦なし

(新倉教育長)

それでは、ろう学校高等部以外の教科用図書についての質問をお伺いいたします。これらの候補本に対して何かご質問はございますでしょうか。

(澤田委員)

養護学校の小学部の調査評価表の4ページにあります国語で採択候補としてある「ポカポカフレンズおうたえほんDX」ですが、「簡単な操作で歌を聞くことができ、歌詞も見やすく、歌いながら言葉やリズム感など自然に身につけることができる」とあります。

これは、機器を端末に接続するのでしょうか。あるいは、ソフトを入れるのでしょうか。今回の採択候補の中には、1人1台端末を併せて活用するようなものがあるのでしょうか。関連して、授業の中で1人1台端末の活用と教科書の活用状況について教えていただければと思います。

(特別支援教育担当指導主事)

「ポカポカフレンズおうたえほんDX」、こちらはいわゆる音の出る絵本と同じ構造になっております。端末につないだり、ソフトを入れたりして使用するのではなく、スピーカーが内蔵されている、ボタンを押すと音が出るような、そのような構造になっております。

教科書と1人1台端末とを併せての活用については、調査部会専門部会でもちょっと話題には上がらなかったのですが、養護学校のほうでは、1人1台端末の活用については、一人一人の課題に応じたアプリをダウンロードして使用しているというふうになっています。

(支援教育課長)

補足をさせていただきます。

養護学校のほうにつきましては、今、担当指導主事のほうから話がありましたように、1人1台端末についてアプリを導入しということでお聞きしています。

例えば、「ぼいすぶっく」というアプリでは、絵本の読み聞かせについて事前に教員が吹き込みまして、児童生徒がタッチをすると、その吹き込まれた音声が発音するというような使い方ができるであったりとか、あと、「スプリングン」といったアプリでは、教員があらかじめ写真などを入れて、紙芝居風にしておくのを児童生徒が触れると、それが自動的に動いて、いわゆる作成したものが表示されるというふうなものができるということです。

これにつきましても、やはり一人一人の障害のニーズに合わせた形でアプリを導入してやっているということ聞いております。

また、養護学校におかれましては、昨年度は、教員のスキルアップのために研修を年間で5回実施をしていたと聞いております。講師のほうにつきましては、特別支援教育総合研究所の方やICT支援員の方をお願いしたということ、また、今年度につきましては、1人1台端末を実際に授業でどのように使えるかというところの視点で研究を進めているということで聞いております。1日に一回は使用しようという意識を持って取り組まれているということでお聞きしております。

(澤田委員)

養護学校の評価表の総評の記述について、発言させていただきます。例えば、理科で採択候補としている28ページ「も・や・し〜！」の総評の部分、「話の内容に興味を持ちながら、公共の場所での過ごし方といったマナーについて学ぶことができる」とあります。この記述では、理科との関連が明確ではありません。それから、31ページの理科で採択候補としている「くださいな！コンビニあそびレジスター」、これも理科との関連が総評の中で見えてきません。そのほかにも、50ページの外国語で採用としている「しかけえほんびっくりいろあそび」の総評も同じです。外国語との関連が見えない。総評53ページの道徳の「ぬのえほんペペネロペとあそぼう」、これも道徳との関連が見えてこない。このように教科との関連が明確でないものが散見されます。

もちろん、しっかりと教科との関連性が総評として書かれているものもあります。附則9条本の選定に当たっては、個々の子どもの発達段階等に合わせて選定をして、目的に合わせて様々な活用がイメージされますので、同一の本がいろいろな教科で採択候補として挙がってきたりします。様々な活用方法があるからこそ、その子どもの指導目標と、その教科でのねらいを明確にしておくことが重要だと思います。

現行の特別支援学校学習指導要領では、各教科等の連続性を重視し、その指導内容がどの教科や領域に位置づけられるのかを明確にしていくことが求められております。

選定の総評では、ここを明確にしていただければと思います。意見としてお話しさせていただきました。

(支援教育課長)

ご指摘ありがとうございます。

本当に総評の部分で、やはり何のためにその教科と関連するのかということも明確ではないということにつきましては、採択検討委員会の議事録のほうにも載せてあるかなと思いました。特別支援教育の議事録の最後のところにも載

せられておりました。

養護学校におかれましては、本当にその子自身のいわゆる障害のニーズに合わせた形で、また、教科書自体を一つの教科ではなくて、複数の教科で関連づけながら使いたいと、そういう思いを持っていらっしゃるということは私のほうも承知しております。

ただ、一方で、委員ご指摘のとおり、何のためにそれを使うのかということが明確でなければ、それを選定理由にするのはおかしいということで、私どものほうも承知しております。やはりどういうイメージを持ってその教科書を使うのかということ、しっかりとやはりイメージしていただく中で、総評に書いていただくということは必要だと思っておりますので、指導主事のほうから、養護学校のほうには今後、指導、助言をさせていただきながら、来年度以降につきましては、その総評について気をつけていきたいと思っております。

(新倉教育長)

ありがとうございます。

ただいまのご意見については、来年度以降も教科書採択の検討になっていきますので、事務局としても明記した上で、来年度の選考の際には事前にきちんと指示をするようにお願いをします。

(新倉教育長)

それでは質問を打ち切りまして討論に入ります。

何かご意見、他にございますか。

(意見なし)

(新倉教育長)

それでは、ご意見ないようですので、ろう学校の高等部以外につきましては、議案の一覧に記載の教科用図書を採択候補としてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(新倉教育長)

ご異議ないようですので、ろう学校高等部以外の教科用図書については、議案の一覧に記載の教科用図書を採択候補として決定をいたします。

以上で、特別支援教育に係る採択候補の審議が終了いたしました。

委員の皆様から推薦がありませんでしたので、議案に記載の採択候補により決を採らせていただきます。

採決の結果 議案第30号は「総員挙手」をもって、原案どおり可決・確定する。

○教育長 閉会を宣言

6 閉会及び散会の時刻

令和6年8月15日（木） 午後5時9分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡